

590

37

590-37



1200501525371

久木一謙演集
札幌放送局



天幸一講演集



HINT FOR SKIING
SAPPORO BROADCASTING BUREAU

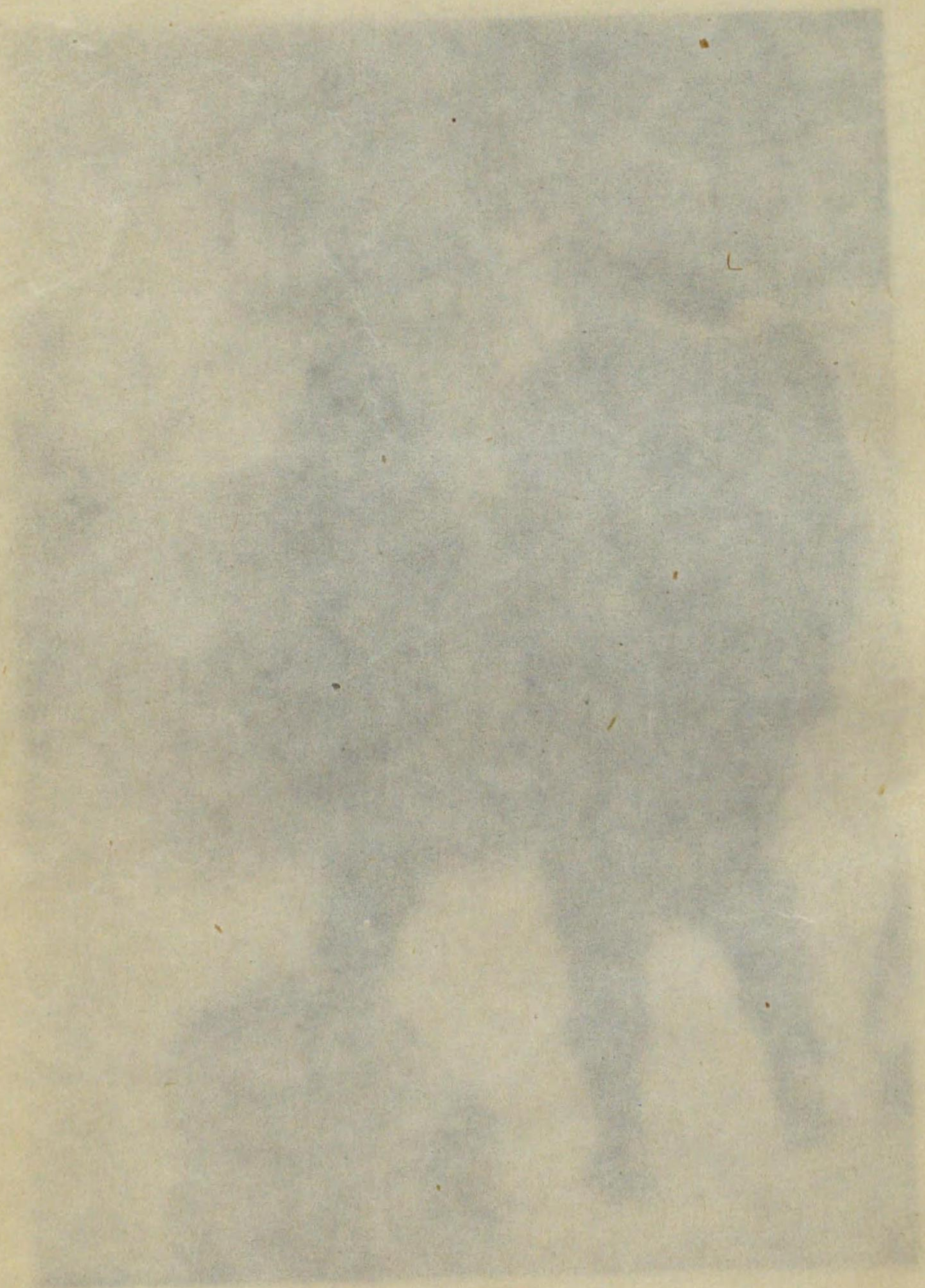
札幌放送局



スキー
—
講演集

札幌放送局編





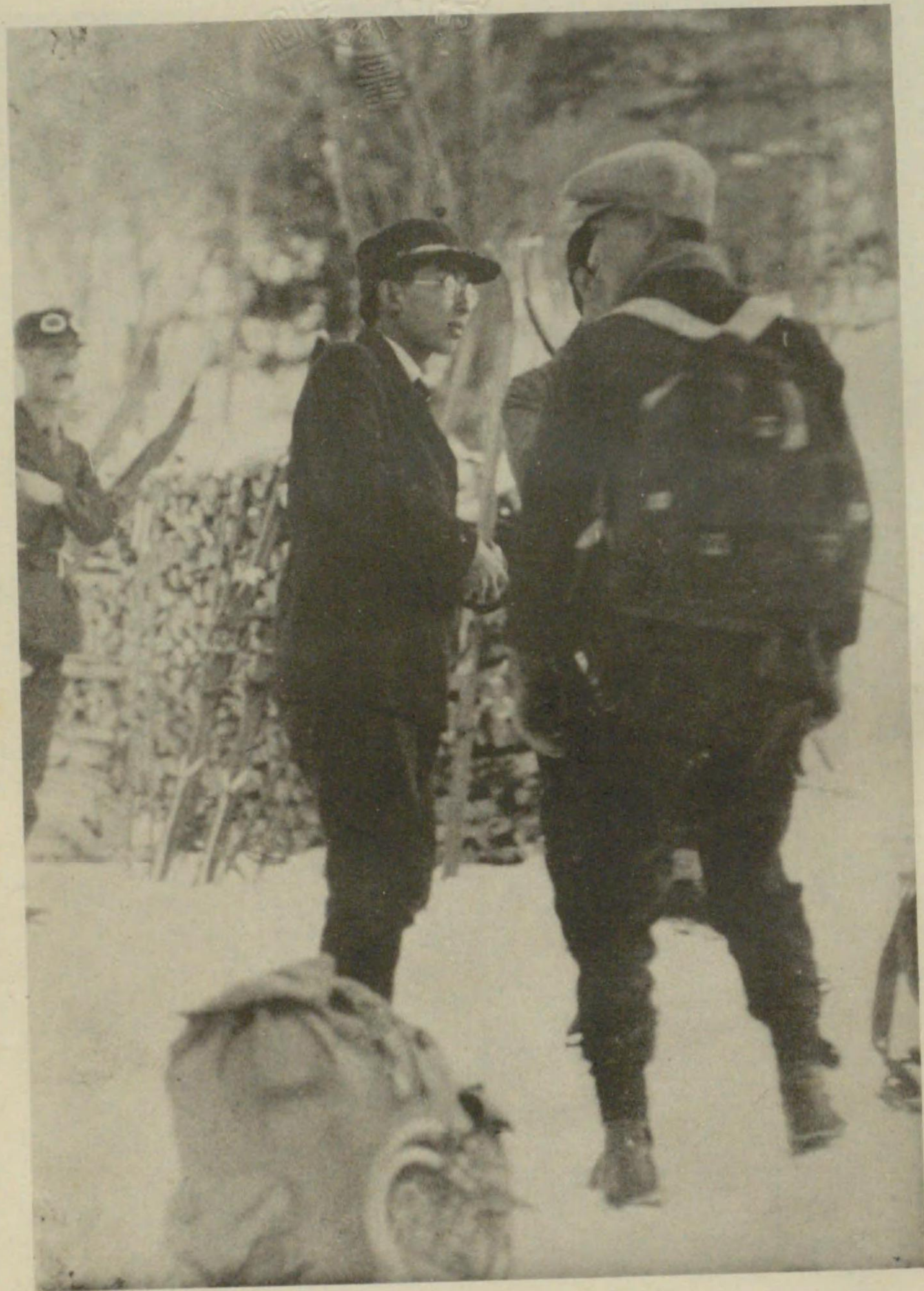
手回山に於ける 義父宮殿下



又去十 齋 齋 齋

其 跡 亦 復 同 辭





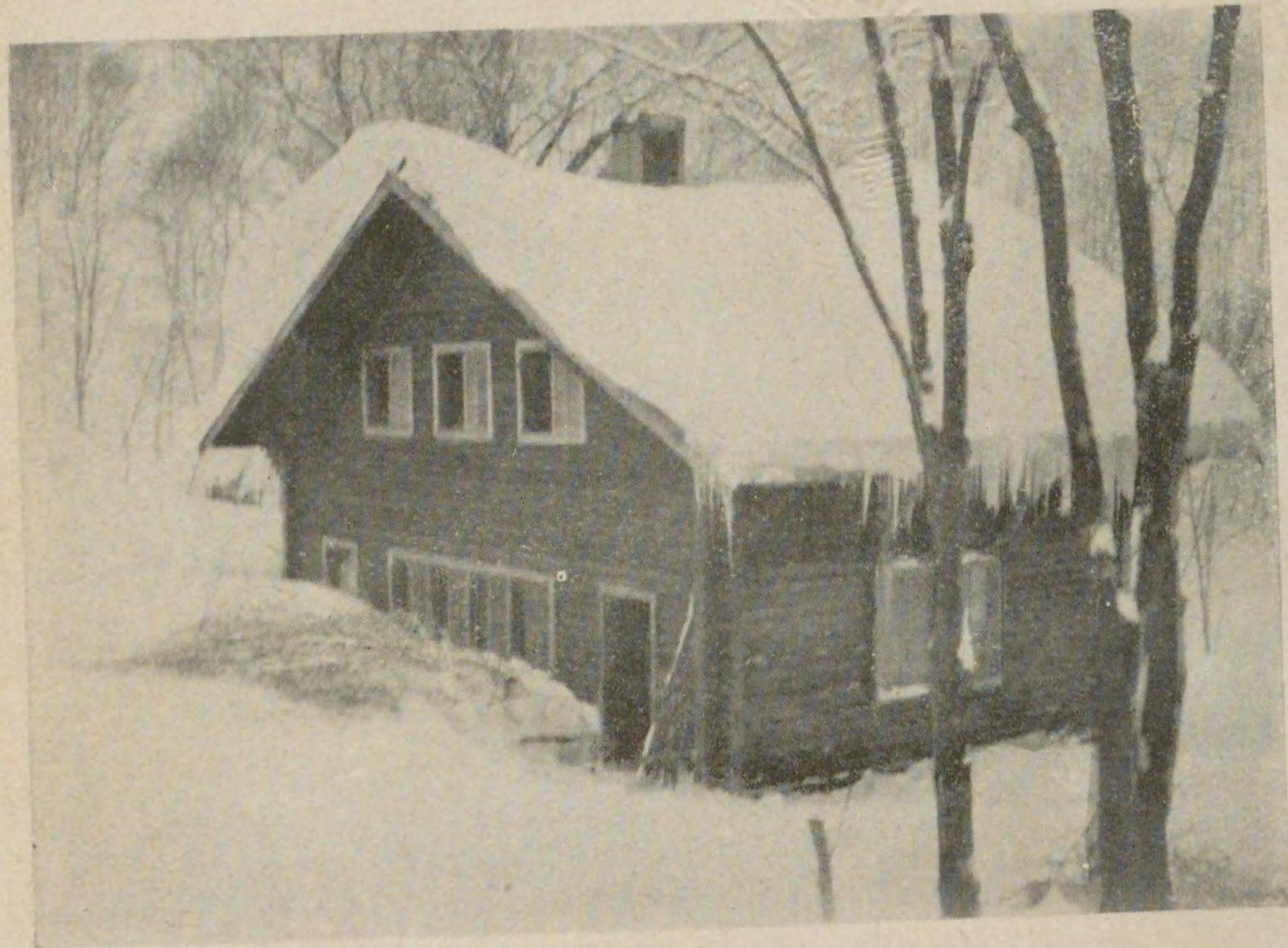
手稻山に於ける 秩父宮殿下





札幌郊外に於ける

秩父宮殿下の御滑走

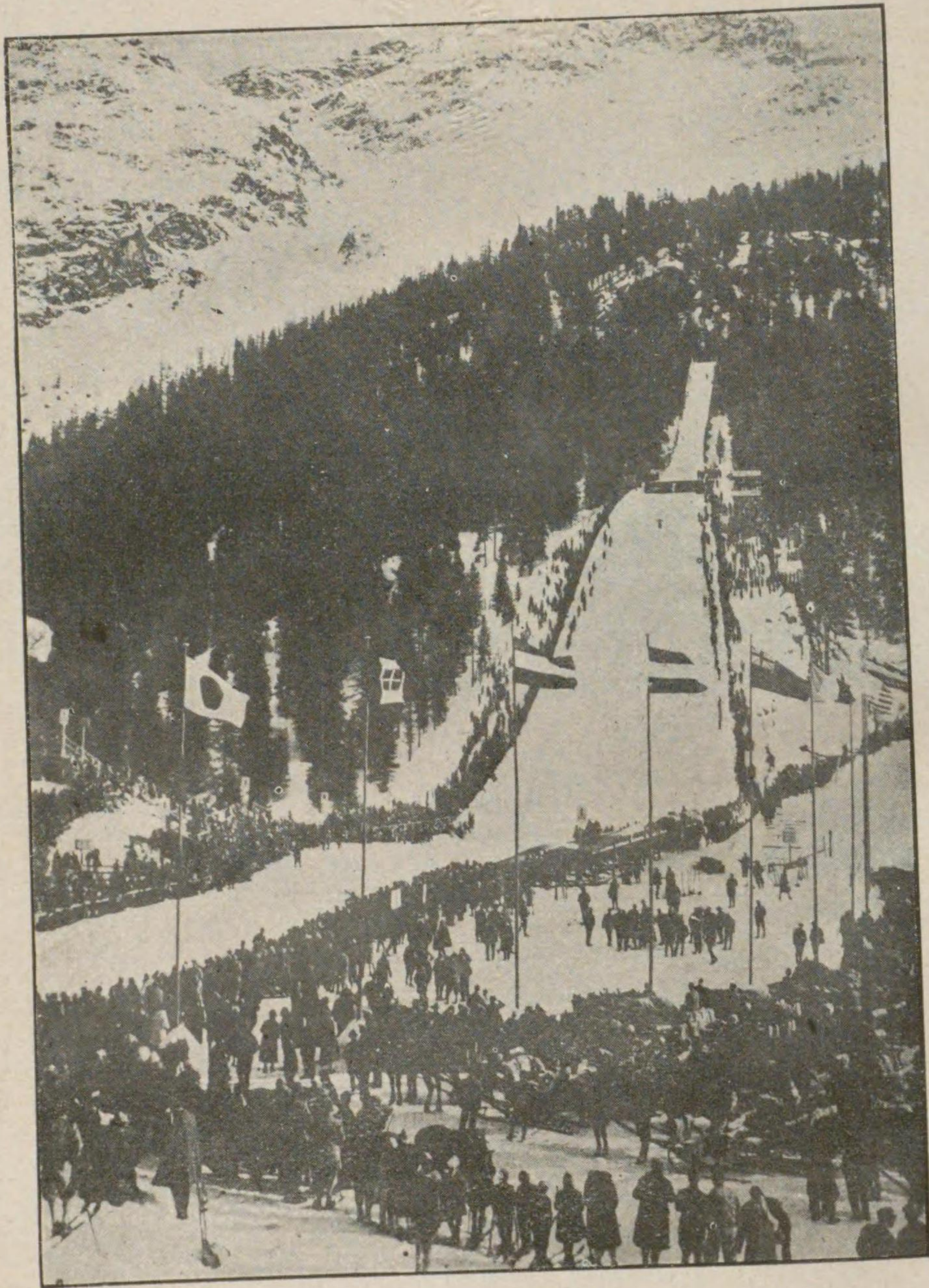


手稻. パラダイス ヒユツテ。





ノルウェーのシエヌング。ヒユツテ。



瑞西 オリンピア. シャンツエ.



理想的なジャムプ



三角山に於ける スキー大会の ジャンプ



1928. オリンピック. デイスタンス. レース. 50K.M.

1位. スウェデン選手. ヘツドルンド氏

タイム 4時52. 37

はしがき

雪のシーズンとなりました。

本年二月末御來道あらせられた 秩父宮殿下の有難き御思召に添ふべく、其の後各方面の有力な方々の配慮により近く札幌附近のスキー地に世界的な一大センターが建設される事となり、又近くスキーで有名な諾威からは世界的大選手が來道することに決定したとの事であります。

斯くして雪の北海道が愈々世界的に活躍するの日が近づきつゝある事は我々の非常に愉快に又痛快を感じる次第であります。

此の機會を捉へ當放送局では多くのスキーファンのために先にラヂオスキー週間を催し斯界の權威である各講師に依頼し有益な講演の放送を致したのであります。此の輯は右講演の内容と其の他の参考となるべき事どもを附録として收めたものであります。スキー愛好者の一助ともならば何よりの幸であります。

昭和三年師走

札幌放送局

本書は、スキーの歴史の一端を述べたものである。その内容は、スキーの歴史、スキーの用具、スキーの競技、スキーの普及、スキーの将来などである。本書は、スキーの歴史を知る者、スキーの用具を知る者、スキーの競技を知る者、スキーの普及を知る者、スキーの将来を知る者、に役立つものである。本書は、スキーの歴史を知る者、スキーの用具を知る者、スキーの競技を知る者、スキーの普及を知る者、スキーの将来を知る者、に役立つものである。本書は、スキーの歴史を知る者、スキーの用具を知る者、スキーの競技を知る者、スキーの普及を知る者、スキーの将来を知る者、に役立つものである。

おしなま

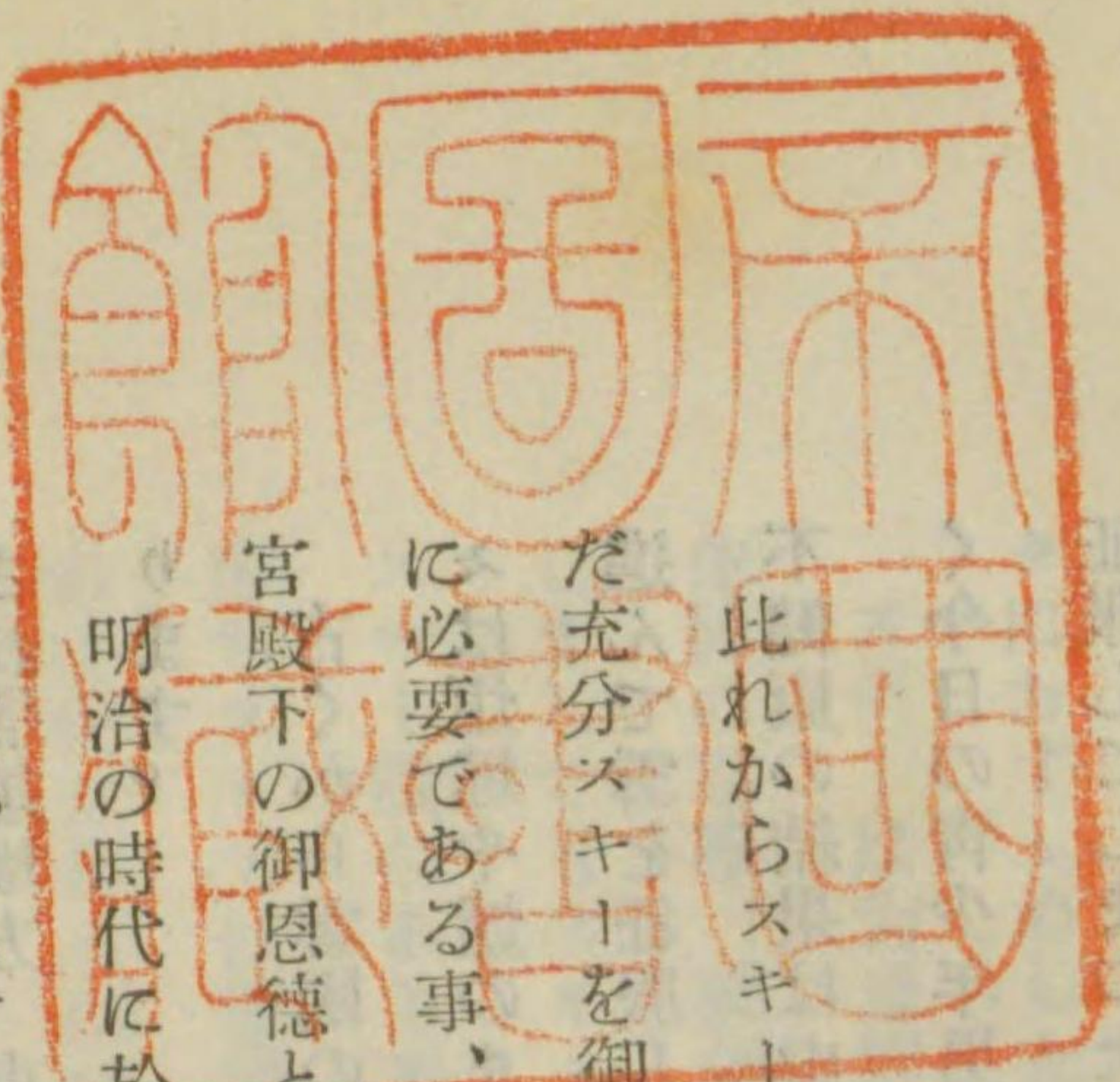
スキー講演集

目次

一、秩父宮殿下の御恩徳とスキー界	北海道帝國大學 スキー部長、醫學博士	大野 精 七……一
二、スキーの諾威とスウイス	萬國オリンピック派遣選手 附、今冬來朝候補に上れる諾威の選手達	廣田 戸七郎……三
三、スキージャンピングに就て	萬國オリンピック派遣選手	伴 素 彦……三〇
四、デスタンスレースの器具及服装	萬國オリンピック派遣選手	高 橋 昂……四二
五、スキーの登山に就て	北海道帝國大學スキー部	中 野 誠 一……五三

附 録

一、スキーの發達と競技	廣田 戸七郎……六七
二、スキーの練習	中 野 誠 一……七六
三、スキージャンプの飛び方と見方	伴 素 彦……八七



一、秩父宮殿下の御恩徳とスキー界

北海道帝國大學スキー部長 醫學博士 大野精七

此れからスキーの御話を申し上げようと思ひますがラヂオをお聞きなされる皆様方の中にはまだ充分スキーを御理解になつていらつしやらない方々もあらうと思ひまして先づスキーが雪國に必要である事、次にスキー地としての北海道の位置を簡単に申上げまして、然る後、秩父宮殿下の御恩徳と我がスキー界と云ふ題に就て御話致したいと思ひます。

明治の時代に於きましては日本にウィンター、スポーツ即ち冬の運動と云ふものは殆ど無くたゞ僅かにスケートを信州の諏訪湖でやつて居つたに過ぎないので有ります。スキーを我が國でやりだしたのは明治四十三年奥國レルヒ少佐が來朝して高田及び旭川の各師團でスキーの講習會を開催し、其の講習を受けた陸軍の將校より一般にひろまつたのでありまして我が北大ス

キ―部の先輩も明治四十五年三月、月寒に於て三瓶、松倉、中澤の三將校よりスキー術なるものを教へられたそうであります。其後スキーは北大スキー部を始め主に學生によつて研究發達され信越地方、東京地方、北海道地方、樺太地方等の雪國に於て益々盛んになつて來たのであります。

二

古くから雪國の住民は雪を恐れて蟄居する習慣が御座いました、つまり蛇が冬眠する様に人々は炬燵や爐のまわりにへばりついて居つたのであります即ち多くの人々は雪に負けてしまひ進んで雪を征服しやうとしない結局は「小人閑居して不善をなす」と云ふ諺其の儘に不攝生、不健康の結果は虚弱な人々が増加し、肺結核など慢延したのであります、所が今日はそうで無く今日の青少年男女は寧ろ進んで雪に親み、スキーを以て喜んで雪の山野を跋涉し完全に雪を征服してしまつたのであります、斯くの如くして雪國青年の体格が益々發達向上しつゝある事は國家の爲め喜ぶ可きことであります、スキーは雪さへあれば山でも平地でも、又老若男女の別無く誰れにでも出来る點に於て雪國の理想的ウインター、スポーツであります、スキーには

ジャンプと云つて飛ぶ競技、又は走る競技など様々あります之は若い方々の試む可き事であつて老人或は御婦人連にはおだやかな樂む方のスキーをおすすめしたいのです、そして一般の方々におすすめしたいのは余り危険で無い山のスキーであります。

スキーは尙ほ雪國の交通機關として迅速且つ便宜なものであります、殊に山國に於ける學校生徒の通學、郵便電信の配布、警官の巡邏等には最も輕便なものであります、歐洲大戰爭に際しましてもスキー隊が盛んに活 いたしました、我が北門の鎮たる第七師團に於ても精銳なるスキー隊のある事は北海道の方々には既に御承知の事と思ひます。

即ちスキーは雪國に最も適した男性的なスポーツであつて、同時に雪國の交通機關としても極めて便宜なものであります。

我が日本國は南より北へ非常に細長い、島國の集りであつて、雪の降らぬ南國もありますが一般に雪を見るのは本洲中部以北でありまして雪は南に行く程ネバ／＼した綿の様な雪になり物につきやすい、北に行く程、例へば北海道や樺太の雪はサラ／＼した粉雪で物につかないの

三

であります、此の粉雪がスキーに最も適して居るのであります、北海道は此の粉雪に加ふるに大小の小岳が非常に多い、従つてスキーに適した土地が到る處にあります。札幌、小樽兩市の如きは人口十七万もある大都會でありまして、しかも其の市外到る處に適當なスキー、スロップが澤山あります、斯くの如くスキーに恵まれた大都會は世界にも余り澤山見ないのであります、尙其の他の都市町村に到りますまで其の附近にスキーの好適地が多いのであります。

私は北海道を歐洲に於ける瑞西に比して

見たい、又かくあらむ事を願ふ者であります、瑞西は所謂アルプスの本場であつて高山國であります政府は夏冬の登山者の爲めに立派な登山汽車や立派な登山電車を設け山には夏、道開け、可なり高い山でも自動車で登れる處が澤山あります、又夏も冬も利用出来るヒュツテが到る處に造られてあり其の數も數百に達して居ると云ふ事でありまして、従つて年中登山或はスキーの客が各國各地から群集して澤山の金を置いて行きます、即ち此の觀光或は登山客を呼びよせると云ふ事が同國の國策の一つであります。私は大正十年越後の赤倉で始めてスキー

をはき覚え、大正十一、二年と南獨逸や瑞西でスキーを経験して参り、大正十三年の冬から北海道の雪をふんだのでありますが、雪の質は全く瑞西邊と同じく又様々の山岳が多く殊に山には雲をつく様な針葉樹の大木が林立して居りますし、スキーの極樂や仙境が非常に多いので大に安心致しました、スキーの楽しみは何んと云つても山のスキーであります北海道帝國大學スキー部は大正十五年夏率先して手稲山に純瑞西式スキー、ヒュツテを造りました手稲パラダイス、ヒュツテと云つて居ります建築師瑞西人ヒンデル氏の設計であつて二階建丸木造り上下とも十五坪あり、二階の寢室には約三十人を泊める事が出来ます、續いて昭和二年夏、瑞西人ヒンデル及びグブラー兩氏は北大、山崎教授の援助によつて奥手稲に同じくヘルヴェチア、ヒュツテを造り一般の使用を許しております、此れ山スキーの必要なる結果であります。

畏くも我が 秩父宮殿下にはスキーに至極御堪能であらせられ英國御滞在中は御研學の時
間を割かれて屢々アルプスの雪を踏破せられました事は皆様方も御存じの事と思ひます、御歸

朝後も御職務の余暇を以て或は信越地方に或は東北地方にスキーを遊ばされまして尊い御身にあらせらるゝにも係はらず御自ら私共に手本を御示し下され、我等雪國在住者に教へられる事の至大なるは誠に有難く常に感激に堪へないので御座います、そして 殿下が北海道の冬を憧れ遊ばされて居られたと云ふ事は私共の友人、横有恒氏其の他から既に聞き及んで居りましたので私共北海道のスキー仲間は何卒して我等の敬慕し奉る スポーツの宮様を本道に御迎申し上げたいと互に語り、互に祈つたのであります、御承知の如く遂に私共の念願はかなひ、本年二月末 殿下には仰せ出されて北海道の嚴冬を御視察になり、同時にスキーを遊ばす可く御來道と云ふ事になつたのであります、夏は高貴の方々が御見えになる事も御座いますが、殊更に嚴冬の御視察は北海道と致しまして古今未曾有の事であり、吾等のスキー仲間は申すに及ばず、かくと承聞せる全道民は 皇弟の宮様をお迎申し上ぐる光榮を荷ふて非常に喜こんだのであります。

殿下には遠く茶内の移民部落で成らせられ、或は雪上の伐木状態までも御覽遊ばされ、途中中杣夫の小屋まで御視察になり杣夫に有難き御下問がありました。不意を打れた杣夫の驚きと喜びにたゞひれ伏すばかりなる其の瞬間を目撃した私も、其の御高德の深きに、涙なしには居られなかつたのであります、山方面の御案内は私共スキー仲間に仰せ付けられ一同は身に余る光榮を感じたので有ります。山上の 殿下には長くも常に一學生の御氣持にて手稻奥手稻等の小屋に御假泊遊ばされ手稻、奥手稻、ユートピア、朝里岳等の熊の隠れ場所、針葉樹の多い粉雪を踏破せられ、或は青山温泉に成らせられニセコアンやチセヌブリ等の大吹雪と戦はせられ而もあの嚴寒を手袋も召さず、耳覆も召さずにスキーをなされた、其の剛健さと御忍耐には一同恐懼感激したのであります、殿下に於かせられては北海道が本邦否東洋に於ける唯一のスキー好適地なる事を御推稱されました事に於て、私共は愈々以て本道のスキー天恵國なるを喜ぶものであります。

先に私共は定山溪温泉を中心として札幌から手稻山、奥手稻、朝里、余市、無意根尻、喜茂別、中山峠、狭薄、空沼、漁、恵庭等の諸連峰を経て支笏湖に至るスキー、ヒュツテの連鎖を

計畫しまして既に手稲山にパラダイス、ヒユツテを奥手稲にヘルウエチア、ヒユツテを造つたのであります。殿下には此の連鎖計畫を御賛同遊ばされ、此のスキー通路の一部なる空沼岳

(二二六一、米)万計沼のほとりに

殿下御自身のヒユツテを建設遊ばさる

可く仰せ出され、私共に御下令になり北海道帝國大學は悦んで之を御引き請け申し上げ、本年九月二十八日殿下御成婚の吉日を以て工事にとりかかり、十二月十日を以て外郭は出来あがりまして只今内部の設備中であります、程近く竣成する事と思ひます、空沼岳、漁岳附近一体はスキー地と致しましては本道隨一の所であります、今までは雪の上に一夜を泊らなければ此の附近を採渉する事が出来なかつたのであります。但し今後は此の宮様のヒユツテを根據として容易に行ける様になつたのであります。

此の殿下のヒユツテ建設の報知が霹靂の如く全國に傳はり、スキー同好家は申すに及ばず、運動關係者或は有識者方面の悦びは絶大なるものがあつたのであります。殿下の此の御

熱心に動かされて北海道山岳會は中山峠に立派なスキー、ヒユツテを造り、帝室林野局札幌支局は秩父宮ヒユツテの間近き處、眞駒内川上流にて私共が白糸瀧と申して居ります小瀧の附近に小屋を造り、多數登山者の便宜をはかつて居ります、尙ほ豊平川上流、二股にもヒユツテを造りつゝあるのであります、又小樽スキー俱樂部は朝里岳にヒユツテを造りました斯くの如く各方面の御盡力によつて此のヒユツテの連鎖もやがて完結されますれば一泊なり二泊なり或は一週間位のスキー、トウールは思ふ様に計畫し得るのであります。

又京都大學旅行部も此に共鳴して越後赤倉附近笹ヶ峰にスキー、ヒユツテを造つて此の冬から合宿するそうであります、之の外にも恐らく澤山出来る事と存じます。

尙ほ殿下には御來道の折、札幌附近に理想的な固定ジャンプ台を造る様にとの有難き御言葉をたまわり建設者は大倉男爵と拜承致しました、私共の仲間は夏以來適當の場所をと探し居るのであります、實際は冬の事でありましてから此の冬を實地踏査の上、計畫致し度き由を御願申し上げてあります、其の設計は萬全を期する爲め書狀を以て諾威國の専門家に依頼

する外無いと思つて居たのであります、所が圖らずも此處に大なる福音があらはれたのであります。

一〇

今回國を擧げて御目出度き御大典に際して、秩父宮殿下京都御滞在、私共スキー仲間の人なる京都帝國大學教授木原氏を召させられ（ジャンツエ）飛躍台に就て御話があり木原教授は大倉男爵を訪門し、細川候爵同席にて對談中、大倉男爵の發意にて今冬、先づジャンツエ設計技師一名、ジャンプの世界的選手一名、同じく復合競技選手一名を諾威から招聘して實地調査の上、設計を願ふと云ふ事を決定し、大倉男爵から諾威公使を経て招聘方を依頼になりました、新聞紙の報ずる處によれば諾威スキー協會副會長ヘルセツト中尉が選手二名をつれて参る事に決まつたそうであります。

以上述べました如く此の冬は

ノルウェーから世界的スキー大選手を日本

に迎え、續いて來年末には巍然たる世界的大ジャンツエが札幌郊外にそびゆる事でありまし

やう、大倉男爵の此の壯舉に對し、日本のスキー界は莫大の感謝をはらはねばならぬ事と思ひます、日本のスキー界は大正の御代と共に行きつまつて居りました、此の行きつまれるスキー界を發展させる爲めには奨励ばかりでは駄目であつて、先づ準備をせねばならない即ち澤山のスキー、ヒユツテを造つて山のスキーに便宜を興へ、或はスキー、ジャンプの爲にジャンプ台を造らねばならないのであります、日本のスキー術は活動寫眞や書籍の力で進歩したのであります、今後は日本のスキー選手を歐洲に送るか或は世界的スキー選手を歐洲より呼びよせる事が急務である事を私共が絶叫したのも、つい此の間の事でありませぬ。

所が今日、宮様のヒユツテを始めとして多數のヒユツテが出来、今後も續々として各地に出来る事でありませぬやう又世界的ジャンツエの建設も私共の豫想より早く明年札幌に出来る事になつて居りますし、又日本のスキー選手は既に本年二月瑞西のサン、モリツツの、オリンピツク大會に出場し、序でに各地のスキーを見學して歸りましたし、又來年早々ノルウェーのスキー選手が來朝いたしますので日本に於て親しく其の妙技を拜見する事が出来まして本邦スキー家の學

ぶ所多大であると思ふのであります、こうも早く私共の希望がかなふとは夢思はなかつた事であつて、日本のスキー界は實に多幸であります。

此の昭和三、四年度の我が國、スキー界の活躍は、我が國スキー界のエポック即ち新紀元を作つたもので、今上陛下御大禮の記念と致しましても國家的に最も有意義なるものであると信ずるのであります。

やがて北海道を始めとして本邦にスキーの黄金時代が來り國際スキー大會も日本に於て開かるゝでありませう、此の光輝ある我がスキー界の將來を思ふ時我がスポーツの宮、秩父宮殿下の御恩徳に感激せずにはゐられないのであります。

一、スキーの諾威とスイス

附 今冬來朝候補に上れる諾威選手達

萬國オリンピック派遣選手 廣田戸七郎

先に私は外國遠征から歸りますと間もなく放送局の方に御依頼を受けまして歐洲で見聞して参りましたスキーについての感想を申し上げました際簡単にスイスとノールウエー地方のスキー界のことをお話し申しましたが、今此處ではからお話し致しますことは、そのノールウエー、スイス地方の状態をもう少し詳しくお話し申し上げ度いと思ふのであります。

スキーが北方から傳へられて來たスポーツであるだけにノールウエーのスキーは、瑞西のそれに比較して遙かに優れて居ると思ひます（此處で申しますスキーとはスキーに關する何物をも凡べて引つくるめての意味であります）

私達の眼に映ずるノールウエーが私達の爺さんであれば、瑞西は私達の若い父とも見え、又兄貴とも感ぜらるゝ程度の相違をスキーを介して私達は見出します。斯程に年代的にノールウエーのスキーと、瑞西のそれとは相違がゆります。ですから何と申しましても、スウイスはノールウエーに一步遅れて居る處が少くありません。

ノールウエーは世界中の國々の中で、最も良く有効に冬の生活を生かしてゐると思ひます。北方とか、北國とかと云ふ言葉には冬を聯想して多くの場合陰鬱とか寂寥などと云ふ氣持を抱かせられますが、私達ノールウエーではさうした氣持を少しも持ちませんでした。むしろ冬を生かして生活して居ることが反つて羨しく感ぜられました。

ノールウエーには國民的スポーツとして壯んなウインタースポーツの力強い發達と普及が漲つて居ります。

殊にそのウインタースポーツの内でも

スキーは國技として殆んど凡べての

人達が之を知り、之を解し、之を楽しんで居るのであります。

スキーが國民の間に非常に普及する様になつてから、ノールウエー人の体格が、その普及前に比して目立つて優秀になつて來たとは、よく向ふの人達の誇つて語る處であります。若しも何處かで、誰かゞ、ノールウエー人に出會はした時にスキーの話が出て、彼等が誇り顔にスキーの話をしなかつたとすればそれは不思議です、それ程ノールウエー人はスキーを知りスキーに親しみ、スキーを愛して居るのであります。

日本の角技が、よく日本人の持つ戰鬪的氣分とネバリを現す點に於て國技としての價値を失はずに世界に知られて居りますが、今日之が持つその特徴は、やゝもすれば衰微しつゝあるかの如く一部の人に唱へられて居ることは誠に遺憾ですが、同じ國技として見たノールウエーのスキーには、さうした悲しい恨みが少しもありません。

丁度日本人が下駄と思つて居る程度にノールウエー人にはスキーが穿かれて居ります。ですから日本で子供がヨチ／＼／＼歩く様になりますと下駄を穿かせますが、丁度その様にノール

ウエー人は、子供にスキーを穿かせて居ります。そして冬の野原や丘を手を引き乍ら滑らせて居ります。ですからノールウエーには一つの家庭で三代目も四代目もスキー家が揃つて居ると云ふのも少くない様であります。少くともノールウエーのスキー界は、かうした意味の時代的の動きを持つて伸びて来て居ります。現今ノールウエーが世界のスキー王國として一頭地を抜いて居る所以も明瞭な譯であります。

瑞西には山岳のフェウラー(案内者)達の家庭に二代三代目を數ふるフェウラーがある様ですが之を今のノールウエーのスキーに見る二代目、三代目と比較すると誠に面白い對象ではありませんか。一方はスキーに於て、一方は山岳方面に於て、その歴史の古いこと、隆盛なこと、を示して居るのであります。ノールウエーがスキーの國と言はれ、スイスが山岳の國と言はるゝ意味が自づと解せらるゝ様な氣が致します。尤もスイスの山岳發達の歴史の中には、英國の登山家達の大きな業績を忘れることが出来ません。では瑞西のスキーはどうかと申しますと、スキーのスイスは今

日に於てこそ幾多完備した良きスキー場をノールウエーやドイツやオーストリーなどに優るとも劣らぬ程度に持つては居りますが、歴史的傳統の力の少い處にスイスのスキー界の時代的若さを知ると同時にノールウエーの力に未だ追いつき得ないことを知るのであります。

スキー地としてのノールウエー、スイスを比較して見ましても、ノールウエーの方がスイスよりも北方にあるだけにスキーの持たねばならない良いコンディションを矢張多分に有つて居る様に思はれます。然しスキー地としての設備や利便などから申しますと、スイスもノールウエーに優るとも劣らぬ種々の良い點を持つて居る様に思はれます。多くのスキー団体は大抵団体所有のヒュッテを持ち又スキー地として開けて居る處には、街の大小によらず五〇米位飛べる完備したジャムピングヒルを持つて居ります。そしてさうした完備したスキー地に行く迄の交通の便利の良いことは、反つてノールウエーなどより優つて居るかも知れません。又ホテルのスキー設備は何處へ行つても満足する程度に作つてあります。之は世界の遊勝地として知られて居るスイスの持つ天然自然の力がさうさせたと言つた方が適當かも知れません。

然し天恵の賜物をよく生かして行つて居るスウイス人の精神に、私達が教へらるゝ多くの者があるやうに思はれてなりません。昔の諺ではありませんが寶玉を抱いて居ても、之に磨きをかけることを知らなければ、その寶玉も瓦石と何等異なる處がないものとなつて終います。彼を思ひ、是を思ふとき、ノールウエーは永い間自ら發奮、努力して耐ゆまず培い續け來つて今日の盛大を爲して居りますし、スウイスは、天恵の賜物を良く生かして、よく自然の有つて使命を發揮させるだけの明を持つて居たといふことに、私達は敬服する價值を知るのであります。

スキーの旺んであるか旺んでないか

と云ふことは、その土地の運動具店やスキー製作販賣店などを訪れて見て大凡その見當をつけることが出來ますが、一應はその土地で晴れた日曜の一日をスロープ廻りをして覗ふならば尙一層よくその土地のスキー熱に接することが出來るでありませぬ。折よくその土地のスキー競技會に廻り會ふことがあるならば此上なくスキー熱の高低を測ることが出來るでありませぬ。

私達はスウイスにあつて又ノールウエーに行つて世界的のスキー競技會をよく見聞して參りました。此スキー競技會だけの點からノールウエーとスウイスとを比較して見ますと、あれ程旺んなオリンピックのスキー大會を私達はスウイスで已に見聞して參りました後にも關らず、ノールウエーのホルメンコーレンの競技會は私達にツマラナイと云ふ感じを微塵も抱かせぬ處か、反つてオリンピックのスキー競技會以上の收穫を得ました。

實際私達のノールウエーに參りました時には、オリンピックの競技を味つたり、イタリアで國際スキー競技會に行つたりその他小さいそちこのスキー競技會を見て居た後でありましたのでホルメンコーレンの競技會の蓋の開くまでは、大したものぢやなからうと思つて居たのでしたが、蓋が開いて見て流石はスキー王國ノールウエーだと思ひました。私達の仲間が異口同音に日本へ歸つてからノールウエーの收穫はオリムピック以上であつた事を告げましたが、實際ノールウエーにホルメンコーレン競技會のあることはノールウエーの誇りであり、尙又世界

スキー界のレベル向上に資する處が少くないと思ひました。

以上スキー競技に關聯した事を少しお話ししましたから、續いてスキー競技から兩方の國々を比較して進んで參ることに致します。

小さい子供がスキーを穿き、スキーで滑つて居るのは、ノールウエーでもスウイスでも、私達は見受けました。

たゞノールウエーの方が其數に於て優つて居る様に思はれました。

それから稍々大きくなつた十五、六歳の少年達の程度を見ますと、ノールウエーでも三〇、四〇米飛ぶ少年ジャムペアがあり、スウイスでもその程度の少年ジャムペアを見受けました。

そしてそれ等の少年達の技術を比較して見ますと兩者餘り大した相違を持つて居らないやうであります。然しノールウエーの方が此年代の連中に於ても亦遙かにスウイスより數で壓へて居る様に思ひます。

青年達、即ち二十歳前後から三十歳程度に入つて此兩者を比較して見た結果はオリムピック

の競技成績が明示して居る様に、スキーの純競技方面ではノールウエーは未だノールウエーよりは一頭地を抜いて居ると思はれます。

ノールウエーのシグムンドロッドが七二、五米を飛び、スウイスのトロヤニーが七二米飛んで世界の驚異的レコードを作つて居りますけれど、オリムピックで此二人の飛ぶのを見た私達の眼から申しますと、私達はロッドの持つ力の方がトロヤニーのそれよりも優れて居ることを知ります。

今のスウイスの一流選手達は、アプローチを出来るだけ長くつて台までの滑走のスピードで遠くへ行かうとして居りますし、ノールウエーの連中は之と行き方が異つてスウイスの連中のスタートする處より五—一〇米も下からスタートしても踏み切りの力で同じ程度いやそれ以上に飛んで行かうとして居ります。此處にノールウエーとスウイス兩者のジャムペアに技術的相違がある譯で、専門的に何れをとるか申しますと、私達はノールウエーの方をとるべきだと思ひます。之は單にスキーのジャムペアを一例としてノールウエーがスウイスに未だ今日優れて

居ることをお話申したに過ぎませんが、デイスタンスレースの方に到つては遙かに

ノールウエーは強味を持つて居る

のであります。体力などから比較してのランナアの相違には大したことも見出しませんが、滑走の技術、ワックスの技術などを比較して兩國のデイスタンス、ランナアを比べて見ますならば、遙かにノールウエーの連中の方が優れて居ると思ひます。今日、オーストリアの選手で今日のノールウエーと瑞西はスキーの純競技方面では未だ兩者に相當の差がある様に思はれます。丁度四年前、フランスのシャモニイのウインタールンピック、の時に、ノールウエーが持つて居た力量の程度に、今のスイスが昇つて来て、此度のオリンピックで當時のノールウエーとスイスの差よりも少なくなつたとして見ても、未だノールウエーにはスイスはなかく追いつけないぢやないかと思はれます。

スイスでは純粹のスキー競技も日本邊りと比較して見ますと遙かに進歩、發達はして居りますが、何れかと云ふと理論に傾き過ぎて居る傾向を余りに持ち過ぎて居る様であります。

それに又山案内生活が幾分純粹のスキー者競技に精進しやうとして居る者に道を誤らすと申しますと誤弊がありますが碍げて居る處があるかとも思はれるのであります。つまりそれはスキー競技に優れて居る位の連中は、冬のスキートウレンの案内を充分に爲し得るのであります。その爲に外國から來た旅行者達に案内をしたりして居る事が始めは自分のスキーの練習などの範圍に置かれてあるものが、やがては生活の資の爲に爲さる様になり、立派な素質を持つて手が失はれ行く様な弊害も認められぬこともないやうであります。

スキーが一般の人達に理解されて可成り廣い範圍に普及して居ることは、日本以上と云つて宜しいと思ひます。殊に女子が盛んにスキーを楽しんで居ります。そして此邊で申しますと手稻や奥手稻邊に盛んにトウレンラウフを試みて居ります。

スキーの製作、スキー器具などの點に入つてノールウエー、スイスを比較して見ますと、まづ比較するだけ無理の様な氣が致します。

と申しますのは、此方面では斷然ノールウェーが優つて居るからであります。

試みにスキー運動具店に入つて見ましても、ノールウェーでは可成り目新しいものを見ましたが、スイスでは大して感心して見たものはありませんでした。

スキーの材にしろ型にしる私達が日本から持つて行つたものより遙かに良いと思つたものを一つも見ませんでしたし、手に入れることが出来ませんでした。

一般用のスキーは日本の現在作られて居るものと大差ありませんし、特殊のジヤンプとかデスタンス用などは反つて日本製のものの方が優れて居る位に思はれました。

スイスでそんな様な經驗をしたと云ふのも或意味に於て、是迄に日本に割に多くスイスやドイツ邊からスキー方面の道具が輸入、紹介せられて居た爲かも知れません。然し附屬器具などの點、例へば革とか紐とかと云つた様なものには良い物があると思ひました。

スイスで選手の穿く良いスキーが未だ出来ないと言ふことは、スイスの國の選手でさへも、ノールウェー製の競技用スキーを使用して居ること明かに知ることが出来ます。

今度のオリムピックで多くの外國選手が、ジヤンプでもデスタンスでもノールウェー製のスキーを使用して居たことはノールウェー製が何處の國のスキーよりも優れて居ることを立證するものであると思ひました。

尙私は兩國の選手達はどんな風にスキーの練習をして居るか、又スキー地の紹介に如何にその地方の人達が力を注いで、どんなやり方で宣傳をして居るか、スキーの競技會などがどんな風に行はれて居るかと言つた様な問題もお話して行きたいのですけれど、定まつた時間に制限がありますので、遺憾乍ら本題は此程度に止めて最後に一言今度日本に招聘せられてくるノールウェー選手について簡単に申上げたいと思ひます。

秩父宮殿下の有難き思召しにより

且つ又大倉男爵の出資によりまして、已にノールウェーから今冬ノールウェー選手三名が來朝と決定致しましたことは、皆さんの御存じの通りであります。

でその間の精しいお話は略しまして、先づ來朝する候補に上つて居る人達を御紹介致しませ

う。その間の練習は、練習場を借りて、また米助を指導して、ついに、人並みの練習が出来た。

Olav Hørselt オラーフ、ヘルセツト氏は現在のノールウエトスキー倶楽部の副会長でありまして、陸軍中尉であります。

比較的寡言、沈黙の人であります。スキー競技方面の技術的のことに精通して居る人であり、同氏はドイツ語を話しますのでサン、モリツツのオリムピックの時に、私は始めて同氏を知ります。

同氏はドイツ語を話しますのでサン、モリツツのオリムピックの時に、私は始めて同氏を知り、同氏と話しをする機会を持ちましたし、又ノールウエトでは大變世話になりました。

愛嬌がない方ですから始め一寸悲感しますが、なか／＼話をするとうまい、しつかりした人物であることが判つて参ります。親切で温順で而も堅實な同氏がシャンツェ設計を主として又一方他の選手の監督を兼ねて來朝することは私達に喜ばしく思はれます。年齢ははつきり知りませんが三十代であると思ひます。

シヤムプ専門の候補選手、之には四人の候補者があげられてありまして、その内一人が選ば

れて來る筈です。

Jacob Tullin Thams.

Sigmund Rund

Alf Andersen.

Ole Kolherud.

何れも皆ノールウエトのオリムピック選手で、タムス、はもう日本のスキー界に知れ切つて居る名シヤムプアで今年廿九才ですし、シグムンド、ルード、は若年二十才、世界の驚異的レコード七二米半の記録を持つて居ります。アルフ、アンデルセン、は今年廿一才、サン、モリツツのオリムピックでシヤムプで第一位の成績をとつて居りますし、その次のオレ、コルテルド、は今年のオリムピックで複合競技に出場して十八籽のディスタンスで六番になつてシヤムプで一回しか立つて居ませんけれど複合競技の全体の成績で第九位になつて居ります。

ノールウエトの昨年のホルメンコーレン大會では複合競技第八位に入つて居ります。今年廿四才です。

複合競技の候補者、これも矢張り四人あげてあります。

Johan Grøttumsbræten.

Sverre Lislegaard.

Kristian Johansson.

Ole Stenou.

ヨハン、グロツトムスプローテン、は今度のサン、モリツツでもノールウエーのホルメンコ
ーレンの複合競技でも最高點を得て居る現在世界第一の選手であります、今年廿九才彼がノ
ールウエー語しか話せないのが全く遺憾です。

スヴェレ、リスレゴード、は日本のスキー選手がトレーニングを受け、大變厄介になつた選
手で非常に快活で良い選手です。昨年はノールウエースキー倶楽部から推薦せられてイタリ
ーのコーチに行つて居りました。ドイツ語が大變巧なのとコーチが旨いのと、日本選手に親しみ
のあるので此選手が一番来るプロバビリテイが多いと思はれます今年廿六才です。

クリスチアン、ヨハンソン、今年廿才で若いことではルードと同じでサン、モリツツのオリ
ンピックへはジャンプの補欠で行つて居た様です。とても飛び方の綺麗な一流選手です。未だ
若くて愛嬌のある。良い男です。

オレ、ステーネン、は今年のホルメンコーレン、の複合競技でグロツトムスプローテン、の
次位になつて居るジャンプも、デイスタンズもとても強い選手です、今年廿四才です。

兎に角以上の二種の競技の候補の内から一名宛選ばれて来る譯ですが何れが選ばれて來ても
世界の一流ばかりですから、得る處が非常に大きいと信じますし、多くの皆さんが何を期待
して居られても良いと思ひます。

而も是等ノールウエーの一流が北海道、殊に札幌に最も長く滞在するといふ點で吾々北海道
のその道に趣味を持つて居る者には又となき好機會であると同時に、その幸運さは恐らく全國
のスキー家達の羨望の的となつて居る處であると思ひます。

私達は最も親しく世界的の選手達に接して此好機にスキーに關する得らるゝだけの智識を得
やうぢやありませんか。そして名實共に日本スキー界の中心地たるの名に恥ぢぬやうにしませ
ふ。

そして非常に喜んでやつて來るノールウエーの選手達をあらゆる機會にあらゆる形式で歡迎
し満足させて一層日本に對する好き印象を彼等に與へやうぢやありませんか。

三、スキージャンピングに就て

萬國オリンピック派遣選手

伴

素

彦

スキーは現在世界的に流行致して居ります如何なる人にも適當する、まことに愉快な良いスポーツで御座いますが、そのスキーの中でもスキージャンピングは奥であり且又その華であると言はれて居ります。

そしてそのジャンピングにも色々種類がありまして、スキー術の一要素として山を滑り降りる際にも之を習得して居れば、大變便利なものでありますが、本日は競技としてのスキージャンピングに就いて申しあげたいと思ひます。

このジャンプがどんなものであるかと云ふ事は、皆様方は大体既に御承知の事と存じますが斜面の途中に約二米の高さの台で相當の幅を持ちそして十度近くの傾斜をもつてゐる台を雪、

土、木等で作りこの台の上の斜面を上方に始めは極くゆるく上方に至るに従つて急にのばしておき、台の下は三〇度位の急斜面に續けましたものが、スキージャンピングに用ひられる所謂ジャンツエ、ジャンピング、ヒルで有ます台。をジャンツエその上の斜面をアプローチ、下の斜面をアライテイング、グラウンドと申します。そして、アプローチを滑降して參りまして、その勢でジャンツエの端から、空中に飛び出し、アライテイング、グラウンドに着陸し更に滑降を續けるのであります。

アプローチを滑降致しますときは

身体を低くして、充分に安定を保ち且速力の出る様に致します、そして台の端に來たときに踏切り（サツツと吾々は申します）をして空中に飛び出します。此のサツツは幅飛等と異りまして、今までまげてゐた膝や身体を急に強くのばし、身体を強く前方に投げかけるのであります。空中に出ますと、腕をまわして空氣の抵抗に勝ち乍ら体を前へ傾けます。充分に前方に身体を傾けませんかと空氣の抵抗で後へそりかへり、三〇度もある斜面に降りて立つ事は出來ませ

ん。空中で身体を前へ、くの字形に曲げるのが大變良い結果を與へます。こう致しますと浮力が働きまして、空中力學的にまことに有利で安全に遠くへ飛ぶ事が出来ます。着陸斜面につく瞬間には片一方のスキーを前進させて、テレマーク姿勢と申します姿勢をとつて、落下による大きな衝撃に耐えます着陸斜面を急にしているのはなるべく斜面に平行に落ちて衝撃を少くするためであります。

競技法としては、飛びました距離と飛ぶ形とが採點されますので、選手は勝つためには遠くへ、然も美しく又合理的に飛ばねばならないのであります。アプローチを安定に速に滑り強く前方にサツツし、空中で充分体を前傾し、しかもその身体はのび切つて居り、その上にくの字形にまげ、左右にまがらず、スキーは良く揃つて居りますし、着陸の際にも衝撃を受ける事少く安定に立つて行くのがよいのであります。此の際に大膽、勇敢な動作が非常に重大視される事は此の競技が果斷を必要とする上から當然の事であり、かゝる良い飛方を致しましたものはその結果として距離も遠くへ飛びますし、従つて距離の點數も良いのであります。

距離の點と飛形の點との和の大なるものが優勝者となる事は申すまでもない事であり、

このスポーツにつきましては、一度でも之を御覽になればいかにも豪壯な、男性的な動的美に感心させられるでありませうし一度でも之を試みられるならば、その興味は試みる度數と共に増して参りまして止められない様になられるに違ひないのであります。一歩／＼歩かなければ、位置を換える事の出来ない、人間が、スキーをはきまして、雪の上を何等の勞力もなく極くなめらかに滑り降り、そして空中を飛行し更にまた滑降を續けるのでありますから、その事だけでも、その異常な面白味はお解りになるだらうと思はれます。危険ではないかとか、恐ろしくないかとかよく質問を受けますが、他人のやつてゐるのをはたで見えてゐる程恐ろしいものでもなければ、危険なものでも御座いません、斜面の手入を充分にし、殊に着陸斜面をよく堅めておけば危険は極く少いものであります。恐怖心も練習によつて次第に減じて参ります。そしてこの恐怖心の征服と云ふ事が、此スポーツの、精神的又興味的に面白い所以の一つであると思はれるのであります。

スキーに相當熟練した人でさへあれば、何人でも行ふ事の出来る北國獨得のスポーツでありまして、是を持つて居ると云ふ事は北國人の最も大きな誇の中の一つでなければならぬと思ふのであります。

三四

秩父宮殿下の特別のおぼしめしに

よりまして、大倉男爵、細川候爵の御助力によつて明年この札幌に世界的のシヤンツエが建設される事になりその準備のためにこの冬に諾威から三人の技師及び選手を迎える事の出来ますのは、是等の點から申しまして、まことに吾々の感謝と喜びに耐えない次第で御座います。

次にスキー、ジヤムピングの歴史及び現在の世界各國の有様に就いて申しあげたいと存じます。ジヤムプの起原としては、獨逸ミュンヘンに藏されてゐる古書の中にかゝれてあるのが一番古い様であります。その本には極めて原始的なものではありませんが、一人の若者がスキーをはいて飛んでゐる繪があります、その説明としては次の様な事が書かれてあります。只今か

ら約一千年程前に、諾威にオラフ、トリグビリオンと云ふ暴逆な王様がありました。あるときクリウテンと云ふ村のストウルカウルと呼ぶ青年が、或る嫌疑のために、無實の罪で捕はれ身となりました。そして彼の有罪無罪を決定する裁判法がスキーをはいて山の高い所から滑つて来てジヤムプをしると云ふのであります、即ち立てば無罪、轉べば有罪と云ふのであります。所がストウルカウルは幸にも諾威の東部地方に育ちスキージヤムプを知つてゐたので美事此の裁判にうち勝つ事が出来たと云ふ事でありませう。之が文獻にあらはれた最も古いスキージヤムピングであります。

競技的なジヤムプの起原としては、一八七九年（丁度今から四十九年前であります）諾威の首府クリスチャニヤ（只今はオスローと改稱して居ります）の郊外のスキー場で第一回の諾威スキー大會が開かれましたときに地方の田舎から出て来た一人の少年が鮮なスタイルで私共今日申しますスキージヤムプを試みまして見事に成功し人々を驚かしたと云ふのが一番古い様であります。

吾國で行はれ出しましたのは、大正三年頃からでありまして北大スキー部の先輩、大矢敏範氏を以て嚆矢とされて居ります。それ以後つと北大スキー部員によつての發達が只今までは殆どその歴史であると申して差支へないと思はれます。このスポーツが輸入されてから丁度十五年になる譯で御座います。

北歐スカンデナヴィヤの諸威に發祥しました此のスポーツは現在では随分廣く普及致して居ります。私の知つて居りますだけでも、諾威、瑞典、芬蘭、獨逸、佛蘭西、チエコスラバキヤ、瑞西、波蘭、伊太利、英吉利、ルーマニヤ、ハンガリー、ユーゴスラビヤ、アメリカ、カナダ等に及んで居ります。最も盛んなのは、諾威、瑞典、芬蘭の北歐諸國と中歐の獨逸、瑞西、チエコ、イタリー、ポランド等であります。尤もこの中イタリーは、瑞西で育つた小數のいゝ選手がゐると云ふ丈で量的には大したものではありません。アメリカ、カナダ等は歸化した諾威人等によつて相當行はれてゐる様であります。

昨年の冬二月瑞西サン、モリツツに開かれました、
第二回冬季オリンピック大會に

於て諸國の選手のあらはしました技倆について申しあげますと、この大會ではジャムプ競技が二回即ち、午前に複合競技のジャムプが行はれ、午後にはジャムプだけの競技が行はれました。複合競技と申しますのは、十八籽を走る競走の成績とジャムプの成績とを合せて二で割つた數でその優劣を定める競技であります、即ち走るのも、飛ぶのも強くなければ駄目なのでありまして、獨逸のスキー選手權とか、瑞西のスキー選手權とか云ふものは此の競技の優勝者に與へられるのであります。競走にもジャムプにも強いのでありますからそれは當然の事であると思はれます。日本のスキーの選手權は現在の様に各競技に就いて與へる様にしないで、是非この複合競技の優勝者に與へる様にしたと思ひます。

それで複合競技のジャムプは、ジャムプの専門の選手がやる譯ではなく、どちらかと申しますと競走とジャムプの平均して強い人がやるのでありまして、ジャムプの特別にうまいと云ふ

人は極く小數しか出場して居りませんから、オリンピックの際の此の方のジャムプは省略致します。

競技の結果を申し上げますと一等はノールウエーのアンデルゼンで成績は一九、二〇八點最も飛びました距離は六十四米で當日の最長不倒距離であります。二等は諾威のジクモンドルード一八、五四二點で六二米半飛びました。三等はチェコのプルケツト、一七、九三七點五九米半。以下順位だけ申しますと、四番が瑞典のニルソン、五番瑞典のルンドゲン、六番アメリカのモンソン、七番瑞西のミユルパウエル、八番瑞西のフォイツ、九番獨逸のノオイネル、十番が瑞典のカールソンであります、私は三九米しかとせず、三六位と云ふ甚だ劣等な成績で御座いました、全く皆様方に御詫びの申し様もない始末で御座います。此の成績によつてお解りの如く諾威は世界で今一番うまいので御座います、三番にチェコのプルケツトが非常な好成绩でむしろ番狂はせと云ひたい成績で入つて居りますが、之も諾威の賞にもれた二人の選手が轉倒致しました爲であります。その二人の中のチウリン、タムスの如きは第二回目のジャムプで轉倒こ

そいたせ、七十三米と云ふ實に驚異すべき距離を飛んで居ります。此處で御参考までにジャムプの現在の世界記録を申しますと、二等をとりましたデグモンド、ルードの七二米六〇で御座います。

諾威の選手には、其飛躍距離に於て、そのスタイルに於て一段の差を他國の選手との間に認めざるを得ません、そして此の諾威に就いて感心するのは、此様ないい選手を多數に、選手を選抜するのに苦しむ程有して居る事であり、私どもは幸にこの諾威のホルメンコーレンのスキー大會を見物する事が出来ましたが、此の日は實に國のお祭りでありまして。

皇帝、皇后、皇太子殿下が御台臨になつて、少年組、青年組、老年組に分れて二百數十人の選手が二回宛飛躍致します、その各選手の技倆の優秀な事は實に驚くべきものであります。各國からの出場人員を四人と定められてある、オリンピックではうまい選手も居れば、下手な選手も居りますから、量的にも質的にも此のホルメンコーレンの大會の方がはるかに優秀で御座います。又、皇太子殿下が三八米半の成績

ノルウェーの皇太子殿下は三八米程の記録

四〇

を有せられる立派なジャムパーであらせられます。ジャンプの歴史の古い點から申しまして、此盛大は當然でありませうが、當分この世界をリードしてゐる状態は續くでありませう。瑞典はよくは存じませんが随分いゝジャムパーを有して居ります。中歐ヨーロッパの諸國は近年異常な進歩を致しましたが、まだ諾威には一寸段がある様に思はれます。各國とも諾威からコーチをよんで習つたとの事であり、日本の私どもが全然問題にならない理由は、私どもの踏み切りが弱く且前傾しないからであります。

百聞は一見にしかずと申しますが從來私どもは、あれ程猛烈に踏み切り、前傾するとは思つて居らなかつたので御座います。外國のジャンプに比較致しますと、彼等のこそは本當のジャンプである、私どものは飛躍とは云へずに只台の端から落ちるとしか云へないと思ふのであります。歴史の短いしかも本場からは遠くへ離れた土地で、獨學でしあげた日本のジャンプがいきなり、先に進んだ國たちと對等に争ふのでありますからそれも致し方がないと云へば致し方

がないのでありますが、それだからといつて、私共は決して現在に満足して居るものでは御座いません。全力をあげてその發達に資したいと思ふのであります。今冬吾々は幸ひにも諾威の名選手の雄姿に接する事が出来るのであります。現在の状態に發奮致しまして、今までのジャムプはジャムプではないと云ふ觀念の下に、彼等の指導によつて進みますならば、吾國人に適當してゐると思はれます此の競技は數年にして、外人に追いつく事と思はれます。それに就いて皆様に申しあげたいのは、なるべく多くの人が、しかも幼いときからどん／＼ジャンプをやつて頂きたい事でありませう。皆様方の御助力によつて、オリンピックの會場の白雪の上に日の丸の旗を高々と掲げる日の少しでも早からん事を切に希望して止まないで御座います。

四、デスタンスレースの器具及服装

萬國オリンピック派遣選手

高

橋

昂

デスタンスレース用のスキーは、丈夫で軽くて良く滑るものが理想であります。身長五尺四寸位の人ならば六尺七寸位から七尺三寸位までの間位の處で撰定されるがよく、特に競技が四〇籽とか五〇籽などと云ふ様な之からの大長距離競技にあつては、ターンに不自由のない範圍に於て長い位のものが有効であります。ノールウエーではレース用スキーと云へば必ずアメリカンヒツコリーであつてヒツコリーは確かに北歐の地形と人々に適して居りますが、日本及日本人にはあの重いヒツコリーよりは日本の樺、イタヤ、櫻等の方が滑りもよくあり軽くて、北歐人に比して軽い体重の吾々には工合がよいのであります。

スキーの形はどんなのがよいか

と云ふと、大体の日本の地形としては、フィンランド地方の平地に發達した型のスキーと、凸凹の多いノールウエーに發達したスキーとの兩者の長所を採用して作られた形が最もよいのであります。此のレース用スキーの形と云ふことは大變に難かしい問題でありまして結局は地形と体重と云ふことによつて支配されるのであります。

レース用スキーの中は一般スキーに比して細いのが普通であります。この細いことは速度が早いのと斜面に於ての角付が極めて樂なことの二方面から來たのであつて、在來の經驗から現在では中央一寸八分が最適とされ、巾の比例から申しますと、先の中の廣い處と中央と後端との比が9.5.7.と云ふのが一番よいとされて居ります。巾の細いのは角付が樂であると申しましたが、その外に勞力の節約として見のがし得ない點が有ります。それからスキーの金具の部に於ての厚さは高い位のがよいのであります。此の關係を忘れてしまつてよく一流の選手でありながら、重量を軽くせんものと、この部分を削り取るものがありますが戒むべきことであります。スキーの厚みは、厚い程角付が樂なのでありますから木材の許す限り厚いものがよいのであり

ます。それにしても今度は角付の樂な反面としてターンは可成りに困難になつて來ますが競技者となる位の人ならば此のターンの難易は余りに問題にする必要はないと思ひます。

スキ一の厚さ、之も主として体重と材質の強弱によつて支配されることではありますがレース用スキーが輕くて丈夫と云ふことからして、スキーの背の處に山形の肉を付けてあるので何分何厘と云ふ様な尺度を以てはお話し致し難いが信用のある店から發賣されてゐるスキーは其の間の關係は大體に於てよく作られてゐますが、求める方の第一に試むべきことはスキーのベン
ド即ち反りの部に於ける弾力の強さであります、此の部の固いのは平地のレースの目的に添ひますけれど、凹凸の多い山地の競技用としては、強い弾力のものが激突に對する安全さと、狭い凹處に入つた時の金具の眞下に起り來たる破損に對して非常なる安全さをもつてゐます。それで山型の肉が先端から一尺五寸から一尺八寸附近で消えてゐる様なスキーが在來のレースコースに最も適してゐるのであります。

次は中央部の靴底の部になる處の厚みであります。前に角付のことで話し、たので略しまし

て、此の部分の長さについて一寸申します。此の長さは各人の靴の長さだけか、長くてもそれより一寸位も大きければ充分であります。長いのは精力の節約を貴ぶレースに適さないのであります。昨年までは此の部分を側方から見ると縦に溝を入れてあつたのであります。トアイアンを通す金具に適する様に作られたのであつて、フィンランド及スウェデンから入つて來た型であります。ピリゲンダール、ウ井ツト、アルピナ等と上部から釘付けにする金具の流行する今日にあつては此の溝は不必要なばかりでなく反つて木部の破損の原因となり易いのであります。前部の強い弾力に比して後部は固過ぎる位のが早い速度を有してゐるのであります。よく長いスキーを用ひてゐながらこの部分のヘナクしてゐるのを見受けますが、そんなのは短かいスキーにも劣るのであります。大變不利なのであります。其の不利の中で最先に擧げられる後部の弱いのは登りに於て極めて逆行し易くあり、降りに際して反對に速度が鈍いのである。んなスキーを用ひたのでは、

如何に精力の絶大な選手でも易々

と敗北を招くより外ないのであります。之に反して前部が比較的柔かく後部の堅いものが登りに對して極めて有利な許りでなく滑降に於ても亦極めて有利となります。次に後端から三四寸位の處に他の部分より薄い所がありますが日本の地形に多い小さい凹凸に適させるために付してあつて適當の厚さをもたしたときには、滑らかさと、速度の増加となり、又一方比較的弱い木材を以て強い木材と等しい働きをなさしめるものであります。ノールウエーのスキーだけはこれの無いものが多いのであります。

スキーの裏は滑らかな程よいのであります。北歐一流選手のスキーの裏面は鏡の様に輝いております。そうして彼等はスキーの持運びに於ても速度の生命である裏面後端のさくくれを憂ひて地面には勿論のこと、雪面にも突きたてる様な事はしないのであります。裏面にはスキーの進行方向を正しく保たしめるためと、左右の横滑りを防ぐ目的からして中央に一本必ず溝を穿つてありますが、溝の形には丸と角の二種あつて、角形はフィンランド製によく見られ日本でも昨年まではこの角形が大變喜ばれてゐましたが、オリンピックやホルメンコーレンの

五〇籽を走つた經驗から見て角形は極めて不利なことが多いので、今後は斷然丸形になすべきであり、あの角形の創案國のフィンランドスキーも丸形に改められる日の近きを信じて居ます。それでは何故に角形が不可かと云ひますと、ワックスの手入が大變繁雜なものと、ワックスの持ちが悪く、その上溝が全面積の $\frac{1}{2}$ に近い數を占めてゐる故に雪との接觸場面が丸に比して少く速度の上で可成りの損失となるのであります。

カーブの具合は速度と極めて密接な關係を有するものであります。一寸此の席上では御満足の出來る様なお話しも致し難いのであります。大体に於て各カーブの接合が圓滑であることが必要であります。

スキーの木目これは皆様方が大變喧ましく言はれるところでありまして、皆様方が御撰定なさる様な木目の通つた理想の木と云ふものは千台に一台もない位でありますから、いいかげんのところで御選定になるがよいと思ひます。そうして順次から述べますと板目、正目、負正目、であります。悪いと云はれる負正目の中にも中々味な品があることがあります。此の木目

のことで特に御注意したいことは心材と邊材との交つてゐるのは絶対に避くべきであります。レース用スキーについてはこれで終りにしまして次に締具についてお話し致します。

レース用の締具 は如何なる種類のもでもよいと云ふことを或る外國のスキー大家は言ふて居りますが、各人が不適當だと考へる數種を除いた他の大部分は、レース用としてよろしいのでありますけれども、其の中での代表的のものを挙げますと、ビリゲンダール、ウキツト、ジョンソン、アルピナであります。ビリゲンダールと云ふのは、ホルメンコーレンの競技に於て一番多くの優勝を重ねた選手の名前であり、彼の發明にかゝり、本年度のオリンピック及びホルメルコーレンの長距離競技の六割位は此の締具が用ひられてゐたのであります。此の締具の特色は緩傾斜の登りに於ての歩幅の廣いことであり、急傾斜の登行特にヘリングボーニングのコースに適さない缺點を有して居りますが、ワックステクニツクの進歩即ち、登り蠟と滑り蠟の巧みなる、使ひ分けによつて、此の缺點を補ふて充分余りあるのであります。然しながら此の締具の補ひ得ない缺點は靴の破損を極端に早めることであつて、北歐では之の點に改良を

加へた品が非常に多く出来てゐました。此の締具はノールウェーでも可成りに高い値でありまして邦貨約八圓位もし、折損等は絶対に見受けませんでした。が在來の日本製が可成折損され易いことを聞き、人々も亦危憂を抱いて居りますが、本年は和製のビリゲンダールも數種現れ、其の中にジュラルミン製の新製品が出て居りますがこれが成功すればスキー界の驚異ではないかと信じられます。

結局この締具を採用すべきか

と云ふことはレースコースの状態と各人の技量と好みによつて定まりますが大体に於て急傾斜の多い長距離コースには、ジョンソン、ウキツト、アルピナがよく、急傾斜の登高の少ないコースにはビリゲンダール、ジョンソン、アルピナ、ウキツト、と云ふ順がよいかと思ひます。尚ビリゲンダールの履き方を多くの方々は最初から靴にキリで穴をあけて合せる様に考へてゐる様ですが、穴をあけずに唯靴をあけて、少し締めさへすればよく、釘の長さの事も入つて、おれば充分であり、靴の折り切れも少いのであります。

杖に就て 杖は何と云ふても、軽くて、丈夫な日本の竹が一番よろしい。外國人は随分大きな輪をつけてゐるが肩巾の関係から考へて外径五寸五分のが日本人には最もよく、杖はどうしても重心が一番肝心であります。手皮の付け方は杖の良否を左右するので注意してつけ、右と左を必ず反對にもぢつておく事も、忘れてはいけな。杖の長さは各人の身長と地形によつて異なりませんが、輪の付け根からの長さが、各自の腋の下までが最適であります。

靴に就て 和製の靴が軽い點で或る外國の一流選手から、ワンダーフル、シューズと云ふ賞讃を博したのであります。レース用の靴は何と云ふても足にピッタリと合はなければいけない。

その中でも履いた時にフマジのくすぐつたい様な感じのするのとカガトの上部の處に、くせを取つてよく足に合ふ様に出來て居ることが必要であります。靴を平面において右手でおさへておき、次に爪先に左手を軽く添へて下に押したときにフマジの部に太い皺の出る様な靴はダンス用の靴としては不可であります一般に選手の方々はスキーや縮具や杖については、大へん深い注意を拂つて居りますが、それよりも一層大事な靴について、余りに無關心ではないか

と思ひます。それにしても現在スキー靴と稱して發賣されてゐるものの中には全く理屈に反した随分亂棒なのが多いのは嘆げかわしい次第であります。スキー靴は平らな底の靴であるなどと云ふのは、亂棒な一例であり、こんな靴はすぐ、甲にたゝみを生じて足をいためてしまうのであります。私は比較的淺氣味の靴がよいと思つて居りましたけれど今度の外國での競技の経験からして心持深い靴の有利なことを知り得たのであります、それには前にお話した、カガトの部分の癖の取り方に特に注意が必要です。靴の形もフィンランド、スウェデン、ノールウエー、ドイツ、スミス、イタリー、と各選手のを見て行きますと、ノールウエー製のが一番合理的であると思ひます。

レース時の服装 は軽くて温かいものを身につけて走ることが必要であつて、ズボンも膝の美錠留のニツカボツカーがよく、上衣はフランネルシャツの下に毛のメリヤスシャツがよいのであります、よくレース時に見受ける薄着は寒風により精力を空費すること多く殊に競技者が登高に際して多量の汗を出し、滑降に際しての急劇なる寒冷に會して感冒や腹痛を起すことが

まゝあり勝ちなのでありますから、適当な厚着が、必要であります。又寒風に際しての耳の保護には、ステルンバンドと稱する、軽便な鉢巻が出来て居りますが、帽子の代りに汗止め兼防寒に使用されたら便利かと思ひます。

スキーの履物である靴は、雪の降り積もる山の上を歩くには、雪の厚さによつて、靴の底が滑りやすくなるので、雪の厚いところでは、靴の底に雪を踏みつけて、滑りを防ぐ工夫が必要です。また、靴の裏に雪が溜まると、足の動きが妨げられるので、雪をはき出す工夫も必要です。スキーの靴は、一般的に、雪の厚いところでは、靴の底に雪を踏みつけて、滑りを防ぐ工夫が必要です。また、靴の裏に雪が溜まると、足の動きが妨げられるので、雪をはき出す工夫も必要です。

五、スキーの登山に就て

北海道帝國大學スキー部 中野 誠 一

私は之から、スキーの登山に就てお話申上げる事になつて居りますが、何分マイクロホンの前に立ちますのは生れて初めての事でありまして一向様子が判らず閉口して居ります次第でございます。が然しアルプスの氷河の岸でスキーを滑りますヨーロッパの夫人達は雪焦けの眞黒な顔が自慢の一つだ相でございますから、スキーの話聞かうとなさる皆様も矢張り定めし雪焼の眞黒な顔色が御自慢だらうと想像致しまして、大變失禮かも知れませんが此の黒いマイクロホンを雪焦けのお顔のスキーファンと存じスキーの登山に關するお話を少し許りさせていただきます。

で冬の山登りには、山へ登る道具としてスキーを使ふ場合と、スキーで滑る爲に山へ登る場

合とが有る様であります。然し現在の

北海道の冬の登山の隆盛なのは

多くスキーを滑る爲に山へ登ると言ふ方に重きをなして居る爲だらうと考へて居ります。

それで此様なスキー登山はスキーだけで登り下りの出来る中山型とでも申しますか中位の山登りでは有まして高山型と申しますと雪の外に氷や岩が有りますのでスキーだけでの登山は不可能なんでございます。それで私のお話の範囲も滑る目的で登るスキー登山に限る事に致します。

従つてスキーだけで登り下りの出来ず中位の山と申しますと、誠に山登りと致しましては簡単なものであります。又同時にその面白味も例へ様なない程でございます。冬の毎日曜等は札幌の近くでは手稲山や奥手稲等は大變な人々が登りまして實に繁榮を極めて居ります。

誠に体育上、或は精神上結構此上無しでございますが、多くの人の中には、一寸其邊の小山のスロープにでも滑りに出懸けて來たと言ふ程の手軽な身仕度と心の準備しか持たずに居る人も見受けるのでございます。如何に繁榮して居る山にしましても三千尺を超えた山へ登るにしま

しては之では余りに亂暴すぎはせないかと思ふ事も度々ある様に思はれます。

どんな手近な簡単な山でも、一度吹雪にでもなりまして山の神様の逆鱗にふれますと、小さい我々人間の力などは全く惨めな位何の役にも立たない者でございます。ですから私達はどんなにたやすく登れます山にでも、飽迄、此の大自然の偉大な力の前には敬虔な心持で慎重に眞面目にやらねばならないんじゃないかと思つて居ります。此の心の準備と周到なる用意とが出来て居りますれば、常に泰然として、例へ天候の激變等に會ひましても決して下手な行動を採つて大事を引き起す事は無いと存じます。

それでスキー登山の方法を簡単に申上げますと、第一に單獨登山は嚴禁であります、手稲山の様に非常に賑を呈して居ります山でも、三人以上で行くのが良いのでありまして、他に余りの登らない山へでも出懸けます時は少くとも五人以上の一隊を組織させんと、深い雪を踏んで進む先頭、除雪車になぞらへましてラッセルと申しますが、そのラッセルが非常に疲れて駄目でございます然し又無暗に多いと、何うしても事故が起り易くなりますから最大限先づ十

三四人に制限する必要があると思ひます。で此の一行が十五分から二十分毎に交替にラッセルをやりまして一行が一樣に疲勞を分配する様に致します。又一行の中で一番スキー登山の先輩が隊長普通リーダーと申しますが此のリーダーになります。そしてリーダーは何時でも必ず一隊の最後に居りまして一行を纏める役をするのでございますラッセルは木の込み合はない場所を上手に縫つて進み成る可く後から来る人の登り易い様に先登するのであります。そして後者は特別の事情の無い限り、必ず一列になつてラッセルの後から従いて行きまして決して單獨に別の道を歩いてはなりません。之は一つには勞力を浪費しますと同時に、ラッセルの道のつけ方に不信任案を呈出する意味になり、ラッセルに對して大變不徳義な事とされて居ります。又下りの滑走に於きましては先頭に副リーダー格の上手で山に詳しい人が立ちまして、リーダーは矢張何時でも隊の最後に在つて一行の動靜を注意するのであります他の人達は成る可く先頭に遅れない様に滑走すれば良いのであります。そして先頭は何時でも最後から来るリーダーと常に聯絡が取れる様に處々でリーダーを待ち合さなければ隊が散々になる恐があります、

何時でありましたか、奥手稲山でヒョッコリ唯一人滑つたり轉んだりして下つて行く人に出會ひましたので同伴の人は無いのかと申しますと、同伴者は上手なもので先へ滑つて行つたと申します、それで此人一人残して行くのも氣懸りでしたので最後まで一緒に従いて參りましたお蔭ですつかり日が暮れて仕舞つた様な事がありました。此等も一つ間違へば此人は道を失つて飛んでもない目に會つた所だつたと思ひます、實に危険千萬な事であります。夏の山登りと違ひまして冬の山登りは一寸間違が起りますと直ぐ凍死と云ふ大事、普通、アクシデントと申しますがそのアクシデントを惹起しますから、單獨登山は大禁物、一行は前申しました様な方法で終始一緒に行動するのが

スキー登山の原則であります

その爲には豫め地圖の上で充分地形を研究し、出發前には念を入れて持物を調べ万善を期して登山に臨まねばなりません、まあこう云つた登山法を合理的の登山法とでも申すので有ませう。そこで此の合理的登山法の爲には此他にどんな準備が必要かと申しますと先づ携帶品であ

りますが、之も大旅行になると山の様な荷物を背負はねばなりません、日歸りの山登りでしたなら、先第一に辨當です。腹が空つては戦が出来ぬのでございますから之は充分余分を持つて行かねばなりません。大正九年の頃でしたか、私の學生時代に札幌の中等學校の生徒を手稻山に案内した事がございましたが、歸りの滑走中に全隊の殿りをして参りますと、一人どこかの中學生が轉んだり滑つたりと言ふより轉んだり又轉んだりして一向拂らない人が居りました何だかお腹が空いて居る様子なので「君は腹が空いてるんでせう、辨當を上げませうか」と申しますと二つ返事で「下さい」と手を出します、そこで丁度米一合分の握飯を一つ渡しますと三口か四口にペロリと平げました。處がそれからは恐しく元氣になりました。瞬く間に先の人を越して先登近くへ行つた様でした空腹に握飯がこんなに早速効果を現すものかと全く恐れ入りました。辨當の他に何か甘い物等を餘分に持つて行く事、防風防寒用の上衣も入用であります呼子の笛も持つて行くと大變便利であります。又海豹の皮は登りに大變有効なものですから成る可く使つた方が良くと思ひます。又隊全体としては、リーダーは必ず陸地測量部の五万

分の地圖と磁石を忘れてはなりません、又釘、金槌、ヤットコ、錘、針金、鋳力等の修繕具包帯、メンソレタム等の應急品等を隊員が分配して持たねばなりません、燐寸、蠟燭當も万一の用意に必要です。二日以上の旅になりますと此他に、毛布、米、副食物等相當の大荷物になります。

之等の事を一寸考へますと餘り大げさの準備の様ではありませんが、之も結局、前に申しました通、減多にはないが夏よりも冬は危険が多いからであります、そこで、冬登山には如何なる危険があるかを簡単に申上げる事に致します。

先づ危険の第一は用具の破損でありまして、充分前以つて檢べてもスキーが折れたり何かする事があります。此の爲に意外のアクシデントの原因となる事もありますから仲々馬鹿にはなりません、かゝる時は直に全隊が集合し共力して應急修理を加へねばなりません。又一人が自分勝手の速力で、滑走しますと隊が散々ばらばらに分れまして、一人の人の故障が一隊の人に知れずに大事を引き起したり、時には全く道を間違へたり致します。一隊は飽く迄離れてはな

らないのであります。

又スキーの登山には時々滑り落ちる事があります滑り落ちて命にかゝわる様な處は既にスキー登山の範囲を超へた處であります。然し時には止むを得ずそんな場所に會ふ事がありますが万一滑り落ちた時は直ぐ一本の杖の根元と先を確り握つて雪に突き刺したまゝ腹を斜面に喰付けて、頭が下向きにならない様に努力しますと大抵は十間内外で止まる事が出来るのです。

次には凍傷であります。此の凍傷は寒氣の烈しい時、濕氣の多い時、防寒具の少い時、手袋靴下等が多過ぎて窮屈の爲血の還りが悪くなつた時に起ります。指や耳が痛くなれば凍傷の前兆ですから、その原因を確めて豫防せねばなりません、又不幸、凍傷に罹つて神経が痲痺して仕舞ひましたら、雪の塊等でその部分を擦つて恢復を計ります、直に湯等にて温めては悪い結果となります。

又自分の技術以上の速力を出す事も危険の一つです。他の人や樹木や岩等に衝突して飛んでもない結果となる事があります。己の力を知れ、でありますから自分の力以上の事はやらない

に超した事は有りません。

又前に申しました空腹も危険性を多分に持つて居ります空腹は早く疲れを呼びます。疲れの後には眠くなるものです。万一

眠氣が來る程になれば非常に危険

で、そのまゝ眠れば死んでしまふのであります。此時のねむさは慾も何もなく只、ひたすらに眠り度い計りである相です。もし一行の内に此様な状態に陥つた様な人でも出來ればその人の体を叩いたり叱つたりして氣を立たせ、出來るだけ早く安全な場所に運ばねばなりません。

次に雪崩でありまして雪崩には、凍つた木の無い急斜面に新しい雪の積つた時、表層の新しい雪だけが、なだれる表層雪崩と、晩冬早春の候の正午から午後三時頃迄に南向面に場所を限つて起る底雪崩とがあります。之は表面だけの雪崩か、底雪崩れかを見分けまして地圖の上の場所を記入し、何等かの方法で一般スキー家に發表すると大變後の人の爲になります。

又吹雪も危険の一つです、吹雪になりますと寒さが強くなり同事に方向を取り違へる様な事も起ります。

此様に危険の數々を並べますと、如何にもスキー登山は危険の様にも考へられますが、前に申しました周到なる心と物の準備をして居りまして、一隊が一心になつて居れば決して無暗に生命の危険等に出會ふ様な事はございません、此様に危険ばかりを竝べましたのも要するに萬全の策を採つて、方に一つある少い危険をも避け得られるだけ避けて、スキー登山の健全なる發達を計り度いと希つての蛇足に外ならないのであります。

扱又此の山登りと言ふ事も一つの社會生活でございまして、社會生活である以上道路には左側通行と云ふ交通道德あり、電車にも又電車としての道德があると同様に、山登りにも又道德と申しますと大げさでは有りますが、まあ心得と言つた様な事がございまして。郷に入つては郷に従へでありまして、山に行けば山の掟に従はねばならないかと考へられます、では山の道德と申しますか心得と申しますか、そう言つたものはどんな事であるかを二三申上げる事に致します。

ます。

第一には個人的には他人の迷惑を懸けない様に注意する事でありまして、不完全な準備とか山での輕卒な行動の結果、自分がアクションに遭遇する様な事になりますと、同時に多くの人達に非常な迷惑を及ぼす事になります。それ故山に登ります時は特に周到なる用意と慎重なる行動が必要なのでございます。

次に山での行動は常に共同一致であり且つ敏速である事も心懸けねばならぬ一つの事であります。それで着物の着がへとカスキーの蠟塗の様な事は休む時間を利用してやる事も必要でせう。進むも止るも一同一緒にやる様にせねばなりません。

次には進行の最大限度を尊重する事でありまして、進行の最大限度と云ひますと、山の大小地形の如何によりますが、午後の二時を最も遅い進行時間の限度とします。或る山へ登る場合その山の頂に達せない中に午後二時になれば思切り良く引返へす事があります。歸路が時間をとる様な地形でしたならば、その進行の限度はもつと早い時間になります。然し之はどこまで

も尊重して、時間の無理をせない様に心懸けませんと矢張りアクシデントの誘引となる譯であります。

山を汚さない事、之も登山道徳の一つでありまして、山は自分一人の物ではありませんから無暗に辯當の包紙や蜜柑の皮やら、寫眞のフィルムパックの黒い紙等を棄てたりする事は不徳義な事であります。又よく見受けますが白樺の皮をはぎ取つたりする事も山の美觀を害ひまして、良い氣持が致しません、之等はお互に充分氣を付けねばならぬ事かと存じます。

又近頃、札幌地方の山には幾つもの小屋、即ちシーヒュツテが建設されまして、非常に山のスキー行の爲に喜ばしい事であります、それと同時に之等のスキーヒュツテを使用致しす我々には使用者としての道徳が必要であらうと存じます。

第一には、大低のスキーヒュツテに掲示してある、**ヒュツテの使用規則を尊重する事**

であります。例へばそのヒュツテに一泊した時は何程、書間使用した時は何程と使用料の規

定がありましたならば必ずその金額の大小にかゝらず、實行せなければなりません、此の金は小屋の修繕費や經常費になる許りでなく、その小屋の生命の盡きた時、又新しく建設する費用になるものでありますから、建設者に對しても一般スキー家に對しても、又自分に對しても是非實行せなければならぬ事と存じます。又小屋の中の道具類等は遠い里から態々運んだのでありますから粗末に使用しない様、万一破損した様な時には相當の辨償金をその由記入した紙と一所に金函へ投入するのが當然であるかと存じます。小屋を清潔にする心懸も亦、使用者の道徳の一つであると信じます。火元の注意は今更申すまでもありますまい。

此他、種々ありますが、スキー小屋は例へ他人が建てたものでも、使用する時は自分の物と心得へて、粗末にとり扱はぬ心懸こそ、自分とそして多くのスキー家に對する忠實な道では無いかと存じます。

大變取り纏めの無いお話を申し上げまして失禮致しましたが、一點の汚れもなく、只在るものは壯嚴な殿堂の様にそゞり立つ針葉樹と、處女の如く楚々と立つ白樺の林からなるあの美しい

雪の山に登らうとする私達は、どこまでも此の美しい、清いそして偉大なる自然に對しましては、常に愛と尊敬とを以つて望んでこそ眞のスキー登山が出来るのでは無いかと存じます。私達の仲間が、スキーの挨拶として何にでも使ひます、シーハイルなる言葉を、此の敬愛す可き雪の山と、スキーを愛する皆様に捧げまして之で失禮致します。

雪の山に登らうとする私達は、どこまでも此の美しい、清いそして偉大なる自然に對しましては、常に愛と尊敬とを以つて望んでこそ眞のスキー登山が出来るのでは無いかと存じます。私達の仲間が、スキーの挨拶として何にでも使ひます、シーハイルなる言葉を、此の敬愛す可き雪の山と、スキーを愛する皆様に捧げまして之で失禮致します。

附 録

綱 目

一、スキーの發達と競技

廣 田 戸 七 郎

一、スキーの發達經路

私は今、スキーの發達の經路に就て、世界のスキーと日本のそれとを對照的に考へて見る事にする。

外國でスキーが何時代から始まつたかは詳でないが大体に於て中央亞細亞に發祥して、民族の移動と共に北歐スカンデナビア半島に發達したものでらしいとの事である。

我國では明治四十四年、高田で奥國のレルヒなる陸軍將校が之を初めて傳へ、同地方では高田を日本のスキー發源地と稱して居る。又一方、北海道では北海道大學の前身、農科大學が、明治四十六年に赴任した瑞西人の教師コラー先生によつて學生に始めてスキーを傳へたと言ふ事

である。何れにしても、明治の末期に日本のスキー界が生れ出た事となる。外國では北歐と中歐とは全く異つたスキー史を持つて居るのである。北歐方面のスキーは最初は全然實用的方面に端を發して來たと見る事が出来る。スキーは、北歐では數百年或は數千年前から、その地方の人達が冬の生活を營む上の必要にせまられて考へ出した器具なのである。従つてスキーの生命は當時はその人達の生命を保護する交通具であつた。冬の獵入の櫓代りとなり村から村への用足しの命の繩ともなつたものである。かゝる實用物が、多くは都會に住む人達に注目される處となり、或は競技の一種に應用され或は冬の登山や遊戯旅行などの方面に特に進歩し、發達し來つたものである、それで今日の北歐では、勞農ロシアを除いて、フィンランド、ノールウエー、スウエーデン等は、實用方面から見れば、遞送用、軍事用、乃至は單なる交通具として非常に多く使用される一方、純粹の運動競技方面への目覺しい發達を見せて居るのである。

中歐方面では、その發達の經路は正確では無いが、我々の知る範圍では興味的方面にその端を發して居る様である。若し、奥國のツダルスキー氏の所謂、リ、エンフェルドスキー術を以て、今日の中歐スキー界の端とするならば、矢張り實用方面から發達したものであるかも知れない。同式のスキー術は山地のスキー術で主として軍用具としてその當時價值を認められて居たものであるが、此の實用なるものは、北歐の生活の爲の實用と大いにその種を異にして居るものと見なければならぬ。然し、中歐のスキーはもともと北歐からの輸入であるから、實用と殆ど同時に娛樂的の目的を以つて發達して來たのである。

英國のスキーは全く娛樂方面から輸入されたもので、輸入と云ふよりも、多くは冬の瑞西に遊行して、その地で英國人のスキーが出来上つたものであるから、むしろ出稼の類かも知れない。加奈太、北米合衆國のスキー界も、娛樂方面から發達して來たもので、北歐人の移住者が素晴らしい滑走やジャンプを見せて傳へたものである。従つて加奈太、北米合衆國のスキーは娛樂と言ふよりも、競技と言ふ方面から最初の發達を來したのとも言へる。

此等を年代的に見ると北歐から中歐に、それから日本に又其頃にアメリカ、カナダ等に傳は

つたものである。

又競技的方面から考へると北歐のスキー競技と云ふものは約七八十年前から始まつて居る様である。然し今日世界的に有名になつて居る様な組織立つたスキー競技と云ふものは、余り年代を経過して居ない様である。その競技界の最も有名なものは諸威のホルメンコーレン競技會、瑞典のヴァザ競走等である。中歐の競技界は北歐のそれから約十年程遅れて行はれる様になり、我國は更にそれから十年位後に起つたものである。そして現今では、スキーをやつて居る何れの國でも非常にスキーの純粹な競技方面に目覺しい注目を拂つて、その發達に留意して居る。

然らば、此の今日冬期運動の王者と迄云はれる様になつたスキーの競技には、どんなものが含まれて居るであらうかを見るに、大体次の様なものが數へられる。

- 一、ダウエル競走 (約三〇斤乃至五〇斤)
- 二、長距離競走 (約一八斤乃至二〇斤)

三、ジヤムプ競技

(長距離競走とジヤムプ競技を合せ行ふ)

四、複合競技

之は國際競技の標準であるが、此外に各國で夫々異つた競技をやつて居る向きもある。例へば日本でのリレー、レース、英國のスラローム、レース等である。

ダウエル、ラウフと言ふのは獨逸語であつて、日本語の適譯がないが、兎に角長距離競走の一種で、陸上のマラソン競走にも必適するものである。又複合競技とは、一競技者が、長距離競走とジヤムプ競技とを合せて出場し、兩方に對する得點の和で決定するものである。

現今、世界の競技界を通觀するに、矢張り歴史の古い北歐、特にノールウエー、スウエーデン、フィンランドが一頭地を抜いて第一流であり次に中歐の、獨乙、瑞西、チエツコスロヴァキア、オーストリー等が二流であり、日本、加奈太、北米合衆國、伊太利、ポーランド等が第三流國、フランス、ユーゴスラビア、イタリ、イギリス、等が第四流と言ふ處であらう。

我國では競技方面のスキーが組織立つて行はれる様になつたのは近々六年位の間であるが、

競技の組織的發達の結果、スキー材、縮具、蠟、及びスキー術自身の發達に非常な要素となつて、一般スキー術と、そのスキー、フアンの激増を見るに至つたものと思はれる。現在我國の最も有名なるスキー競技は、先づ三つあると云へる。第一は日本スキー聯盟の大會で、各地で豫選を行ひ、その結果によつて、全日本スキー選手權大會が開かれるのである。此の日本スキー聯盟は國際的の代表權を持つて居つて、オリンピッククススキー競技に参加し得るのは此の聯盟の採決によるものである。第二は神宮競技のスキー大會であるが、之は現今單に獨立して居て全日本スキー聯盟とは關係がないのである。第三は、全日本學生スキー聯盟で、高等専門學校以上の各校の聯盟であり、此の競技會に入選者は全日本スキー選手權大會に出場の資格を得るのである。

此所に一言せねばならぬ事は、スキーの使命は決して競技のみにあるのでは無い事である。生活の爲の器具としてのスキー使用と言つては余りにセチ辛過ぎるが、せめて實用方面と言ふ言葉で、もつとスキーが應用せらる可き大なる使命を日本特に北海道には持つ可きである。

一方、登山に冬の郊外の散歩に大きな役を演ずるものである事も忘れてはならない。

二、競技の記録

簡單に競技界の記録を示して、世界と日本とのスキー界を比較して見度い。

一九二八年二月、瑞西サンモリッツの冬期オリムピックに於ては次の記録を示して居る。

五〇 料競走

一位	ビ、エ、ヘツドルンド	(瑞典)	四時五二分〇三秒
二四位	永田實	(日本)	六時〇二分二四秒
二五位	高橋昂	(日本)	六時〇五分二五秒
三〇位	スターネ、ベエルヴアル	(ユーゴスラビア)	六時四六分四八秒
一八	料		
一位	ヨハン、グロツトムスプロテン	(諾威)	一時三七分〇一秒
二六位	矢澤武	(日本)	二時〇二分二九秒

四四位 ロルフ、モリソン

二時四八分〇〇秒

七四

ジャンプ

一位 アルフ、アンデルゼン (ノ威)

六〇米 六四米

二位 シグモンド、ルード (ノ威)

五七、五米 六二、五米

三八位 伴 素彦 (日本)

三四米(轉倒) 三九米

複合競技

一位 ヨハン、グロツトムスブローテン (ノ威)

又、昭和三年二月全日本スキー選手権大會に於ては

三〇料

一位 栗谷川平五郎 (明大)

二時三七分三〇秒

二位 宮下利三 (北大)

二時四六分〇一秒

一五料

一位 長田 光男 (北大)

一時一〇分五一秒

二位 千葉 毅 (明大)

一時二分五四秒

ジャンプ

一位 神澤 謙三 (北大)

二五米 二七米 二四米

二位 高田 興一 (豊原)

二三、五米 二三、五米 二六、五米

此等最近の記録を比較するならば、世界の標準と我國とは可成の懸隔を發見すると同時に、我スキー界の努力も將に今後にある事を痛感するであらう。



590
37

二、スキーの練習

中野誠一

七六

一、準備

スキー、スキーの長さは先づ、二米前後が適當である。立つて腕を伸して、立てた、スキーの尖端が握れる位のものがその人の身長に丁度良い長さである。材は北海道ではイタヤ、カンバ等が多く使用されて居るが、イタヤは滑度が大きく強靱ではあるが狂ひ易い缺點がある。カンバは狂ひが少いが脆い短所がある。

スキーを腹合せにして上下がピッタリ合つた物は狂ひの無い證據である。

締具 (バインダー又はビンダウンと云ふ) 締具には種々あるが一般の場合にはフィットフェルド式、マリウス式、ハウグ式等が最も適當で、長距離競走にはベルゲンダール式、が專

ら評判高い様である。締具の保存には馬油や豚脂の動物脂油を塗布するが良い。革が強くなり同時に金具が錆び付かなくなつて都合が良い。

杖 竹が我國では最も良い材料である。長さは身長に對し胸から肩位迄のものが良い。

靴 靴はスキーにのみ使ふ靴を信用ある靴店で購入せねばならない。普通の靴より半文か一文大きなのを必要とする。靴にも動物脂油を塗布して革の保存と防水の目的を達せねばならない。スキーが愉快に樂めるか否かは大半靴の良否に支配される位であるから靴は間に合せ物や劣等品を購入する事は避けたが良いと思ふ。

他の服装 手袋は毛糸製のものを使用し、常に二三對は豫備を携帯せねばならぬ。他の服装は防寒防風の目的を達して強い品質のものならば初めの中は我慢して間に合せ物を利用し次第に自分の好みを取り入れて作る様にすることが良いかと思はれる。

蠟 種々あるが硬い蠟は焼鍍でスキーの裏面に塗る。軟いものはそのまま掌で擦り付ける。

七七

590

37

二、平地の滑走

七八

平地の滑走はスキ一の第一歩である。種々方法があるが一番多くの場合に利用されるものを紹介する。

普通の滑走法 (レベル、ランニング) 普通の歩行に似たものであつて、スキ一の間隔を五—七纏位置き、スキ一を雪面から離す事なく前に滑り出させ、徒歩と同じ様に進むのである。此のスキ一を雪から離さないのと今一つ徒歩と異なる點は、前に踏み出した脚の膝を深く曲げる事である、杖は手を振ると同じ様に脚と交互に動かして雪の中に突きさしつゝ進むのである。腕で杖を押す事と前に出た脚の膝を曲げる時に体を前に投げかける事によつて、スキ一が滑走して進行を助けるのである。

初心者は体の左右安定を保つ要領を呑込む爲、初めは杖無しで練習するが良い。

三段滑走 (スリー、ステップ、ランニング) 杖を突かづに左右各一步づゝ大休前の要領で滑走し、三步目を滑ると同時に兩杖を同時に突き杖で押しながら三步目を滑走するのである。

三、登り方

最も異つた登り方三種

電光形登行 (ジツグ、ザツグと言ひ慣されて居る) 普通の平地滑走と大体同じ要領で後滑りせない程度の角度を採つて登つて行く。そして或る地點に達したなら方向變換をして今迄と反對側に谷を見下して登る。此の方法を繰返すとスキ一の條痕(普通トレース、又はシュプー)と言はれる)は電光形になる。

此の方法は登り方の正道であつて最も多く用ひられるもので登山は要するにジツグザツグと方向變換を連続に繰返へすのである。

後迂りを防ぐには、上体を成可く直立さすのと、一步毎にスキ一の前部を擧げて雪上を叩き付けながら進む事によつて幾分防ぐ事が出来る。

七九

開脚登行 (ヘリリング、ポーニング) 斜面に眞向合ひになりスキーの尖端を開いて、一歩毎にスキーを雪から上げて登るもので、トレースは恰も「人」字を逆さにした様になる。極めて狭い稍々急な短い斜面を登る時のみ利用するものである。

横登り (サイド、ステツピング) スキーを斜面の最大傾斜線(言換へれば水の流れる方向の事)と直角になる様に並べて立ち、山側の脚(山脚と言ふ)を擧げてスキーを山の方へ一歩開いて置き、次に谷側の足(谷脚と言ふ)を山脚に引き付けて登るのである。之は急な狭い斜面を登る時のみ用ひる方法である。

四、方向變換 (キック、ターン)

説明の便宜上山を右にして登つて居る時(右山と言ひ之と反對の時を左山と言ふ)を説明する先づ立止つて足場を良く踏んでスキーを水平に並べて立ち、左手の杖は体の左側に確り立て右杖を右踵よりやゝ後に右スキーと接して突き立てる、右足を前に蹴る様にして上げて、右スキーはその後端を雪面に軽く置いて、直立させる、雪面に置いた右スキーの後端を中心にして

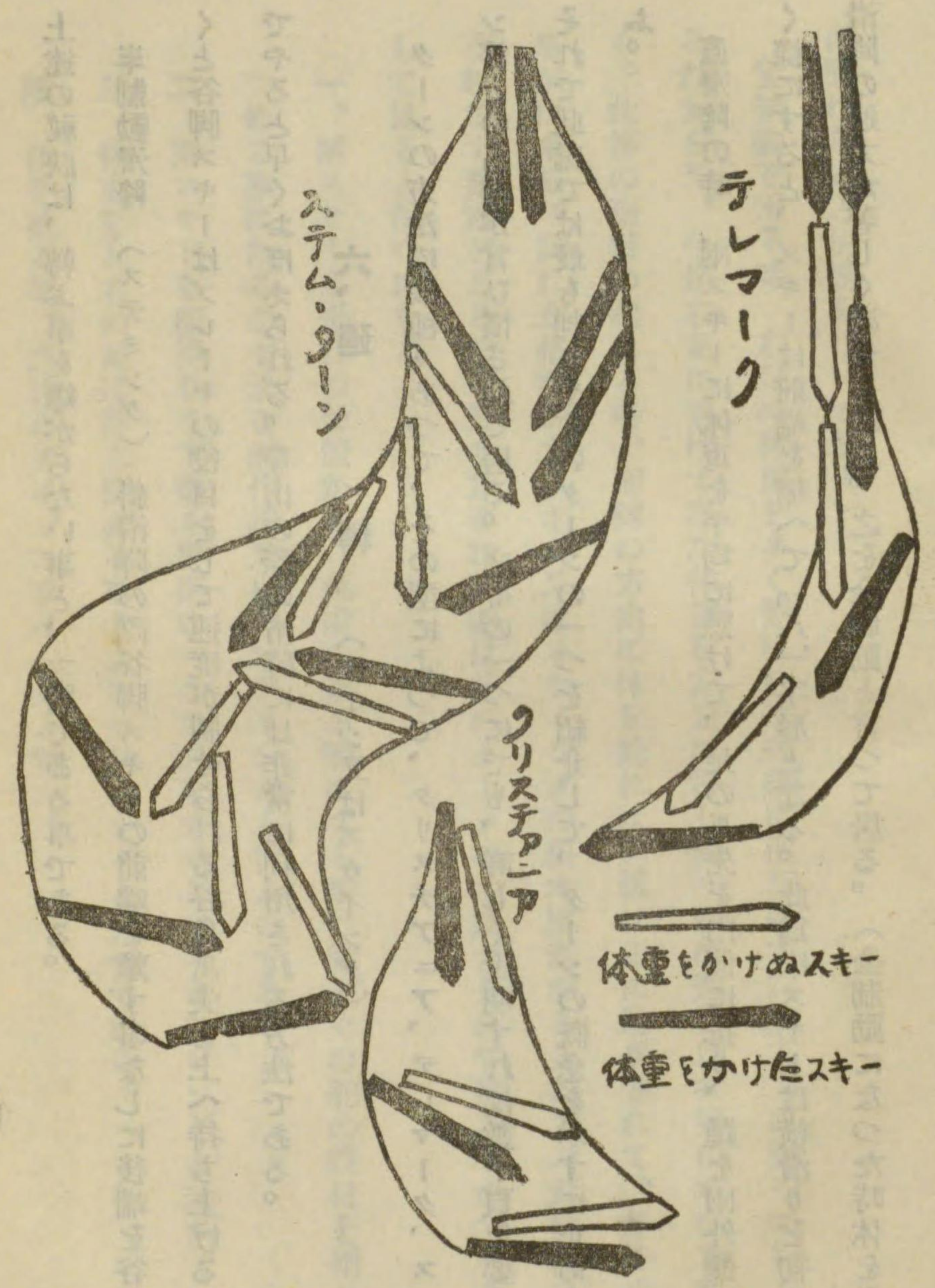
右脚を右外方に回を描かせて廻し、兩スキーを全く反對の方向に向けて平行に並べる。此の所に雪上に置いたスキーを確り踏みつけて之に体重を委ねる。此時、兩足の踵が接近して居らぬと次の動作がやり憎くなる。右杖の力を借りて左杖を雪から離すと同時に左脚を上げて廻しながら、右スキーの山側に平行に置く。此時その指先を上げる様に心懸ければ左スキーの尖が雪に引懸る様な事はない。

之で今は左山となり今迄の反對を向いた事になる非常に雪の深い時、斜面の急な時には、山足から初める動作を谷足から初めて、谷向きに廻るとやり易い場合が多い何れでも良い譯である。

五、滑り方

直滑降 (ストレート、ランニング) 膝を軽く相接して曲げ、兩スキーを全く平行に密着し左右何れかの足を約二十糎位前に出し、体重をやゝ後足に多く懸けて、体全体は斜面に直角よりやゝ後がゝりに前傾して滑るのが直滑降である。

590
37



体重のかけ方の標りかわりと
ターンのボリ方の関係

最大傾斜線に平行に滑るのを直滑降と言ひ、斜面を斜に滑るのを、斜滑降(トラバース、ラ
 ニング)と言つて居る。斜滑降の場合は山足を前へ出すのを原則とする。
 杖は確り握つて必ず手の甲を外側に向け自然に腕を垂らして居るが良い。膝は充分軟く曲げ
 て弾力を持たせ、滑走斜面の凹凸から来る振動を上体に及ぼさない様に、恰も車のスプリング
 と同じ役目を勤めさせる。目は常に十米位前方の雪面を見て居ねばならぬ。
 何れの足を前に出すかは人によつて勝手である。やりやすい方を出せば良い。初心者は全体
 重を後足に懸けて練習すると上達が早い。又膝の離れない爲に、ハンケチを膝にはさんでやる
 のも一法である。危険があるから杖は絶対に突いてはならぬ。又左右の安定をとる爲に兩腕を
 左右に擧げる事は非常に上達の妨げになるから、やらぬ様に心懸けねばならぬ。
 初心者は最初斜面の上の平地から滑り出す様にする必要を早く知る事が出来る。スキーの
 面白味は直滑降に在ると言はれる程愉快なものであると同時に、スキー術の基本も直滑降にあ
 るのであるから、之は飽かずに練習を繰返す必要がある。千回位轉ばねば一人前とは言へない

上達の秘訣は、轉ぶ事を嫌がらない事と、大膽である事である。

半制動滑降 (ステミング) 斜滑降の際谷脚スキーの前端を離す事なしに後端を谷側に押開くと谷脚スキーはブレーキの役目をして速度が制せられる谷足爪尖を上へ持ち上げる様な要領でやると早くおぼえられる。登山の際の滑降には非常に利用される方法である。

六、廻

轉 (ターン又はスウィング)

ターンの方法には種々あつて、その型によつて、クリスチアニア、テレマーク、ステムターン等との名稱が言ひ慣されて居る。之等の一つにでも、詳しく説明すれば數十頁を要する。それで此處では最も判りやすいターンの一つを紹介して、ターンの概念を示すに止めやうと思ふ。

直滑降の時 兩スキーに体重を平均に懸けて、足の爪先を内側に捻り、踵を兩外側に押し開く様にすると、スキーは前端を揃へて「八」字形となる。此爲にスキーは横滑りを初めて、直滑降の速力が著しく減ぜられる。之を全制動と言つて居る。(全制動になつた時体を思切り前

に懸けないと尻餅をついて轉ぶ)

全制動で滑る時 右足に体重を多く懸ければ次第に進行の方向が左方に變つて行くのであるそれから又、今迄右足に懸けて居た体重を左足に移し變へれば進行は次第に右向きに變つて行く。此等の廻轉の起きる時、廻轉の方向に体を捻れば廻轉は更に助長されて、早く小さく廻る事が出来る。此れが廻轉即ちターン又はスウィングの根本原理であるので、此他種々ターンを惹起さす要素があるが、最も重要な要素は此のターンの中に含まれて居るもので、今之を分解して見ると四つになる。

- 一、兩スキーを平行の位置から、角度のある形にする事は船とその舵の役目を兩スキーが勤める事になるので之を舵作用又はステアリングと言ふのである。
- 二、兩スキーを横滑りさす事も要素の一つで之をサイド、スリツピングと云ふ。
- 三、体重を左右の足に移し變える事で之をシフティングと言つて居る。
- 四、体を捻る事、之はボディ、スウィングと言ふ。

多くのターンは之等の要素によつて起るもので、此所に述べたものを、ステム、ターン（又はシュテム、ボーゲン）と言ひ慣して居る。であるから、初心者は此のステム、ターンを充分練習して、ターンの各要素を會得すれば、非常に有利である。

右足に体重を懸けた時、 右膝を折曲げて前の方にスキーを滑り出せば左廻りのテレマークと言つて居る廻轉法になると思へば良い。舵作用の利用を、スキーの前を開いて後を合せてやれば普通のクリスチアニアになるのである。

ジャンプ、ターンは兩足を揃へて飛び上り、その時体を捻つて廻り停るので、又、急激なクリスチアニアは、飛び上る迄にはならないが、一瞬間全体重をスキーからぬき去つて体を捻つて廻るものである。之等のターンは皆第四のボディ、スウイングなる要素を極端に利用したものである。

三、スキージャンプの飛び方と見方

伴 素 彦

近年スキー場へ出かけて殊に北海道に於て、著しく目につくのは、スロップへ澤山のジャンツエ（ジャンプ台）が作られて居る事である。その作られる数の増加は随分著しい。これはスキーをはく人達が、いかにジャンプを愛好する様になつたかをよく示して居る。

スキーの味を一度覺えたならば、その味が一生忘れられないものになつて、そこにスキーファンが出来上る。スキーファンが、一度ジャンプの味を覺えたならば、その面白さが、試みる度數と共に益々深くなつて来るだらうことは私達の経験や他の多くの人達の様子を見ても疑もない事である。

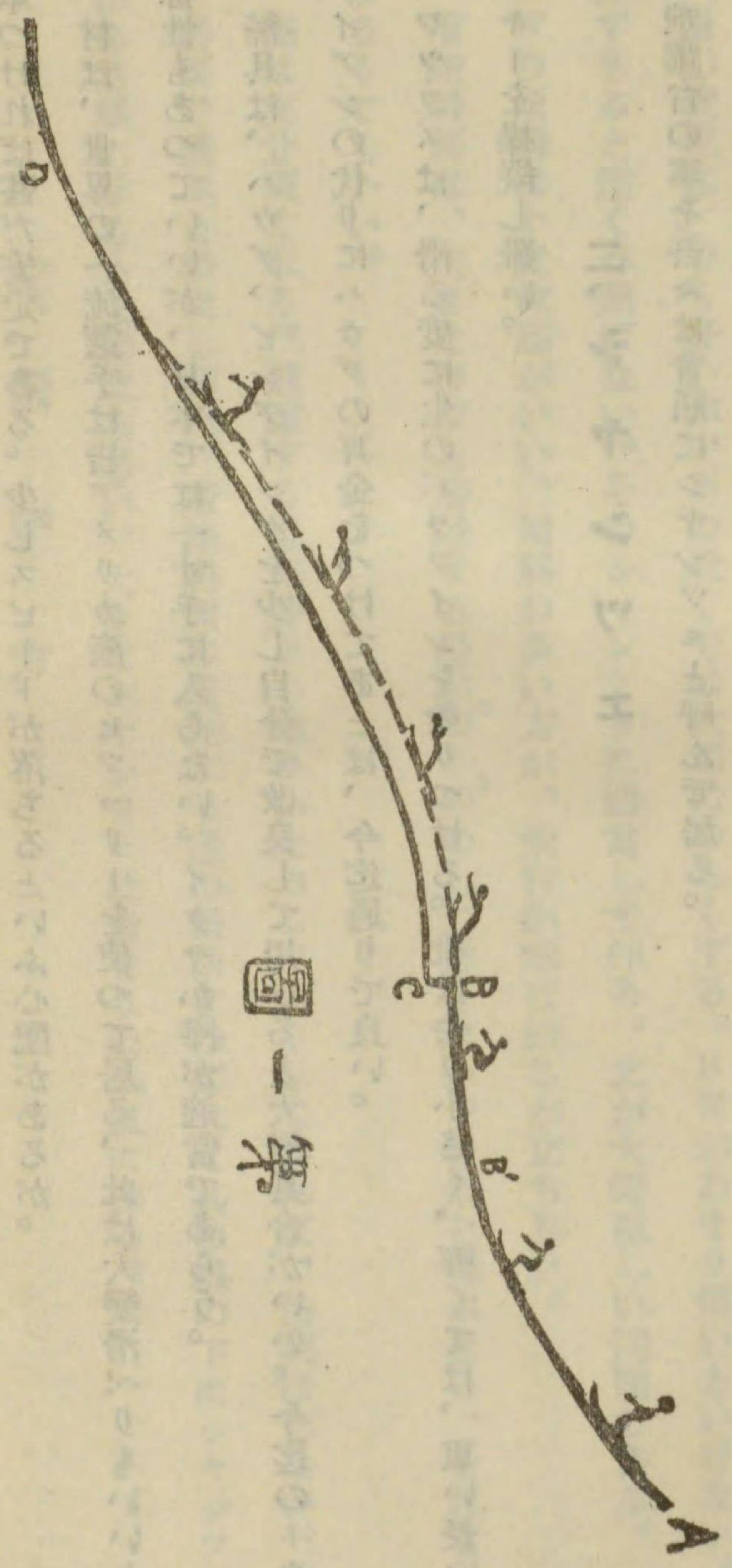
地上に一步一步をきざむにも、一々身体の重心を移し相當に勞力を拂はねばならない人間が

スキーをはいて、純白な雪の上を、抵抗も労力もなしに速に滑り降り、更に又空中を飛行するのであるから、此の事だけでも、その異常な快感を想像する事が出来やう。多くのスポーツの中で此ほど豪壯な、痛快なスポーツは類が少いと思はれる又興味以外にも此がスポーツマンシップの涵養の爲に與へる効果は誠に大きい。

此のスキージヤムピングを愛好し得る事は、吾々北國人の最も大きな誇の中の一つである。此からジヤムプの飛び方と其の見方について、極く簡単に述べたいと思ふ、

一、ジヤムプ用スキー

特別にジヤムプ丈に用ひるスキーである。大きな台で長い距離を飛ぶのには是非ジヤムプ用スキーを用ひねばならない。十米位飛ぶのならば少し頑丈なものならば、普通のスキーでも差支へはないであらう、然し、うまく飛ぶ事は難しい。長さも普通のスキーより長く、幅も廣く重さも重い。長さは大人ならば七尺五寸位から八尺位迄が適當であらう。体重や技術に依つて其の人のよくスキーは變へねばならない、スキーの底は出来る丈平滑な物を選ぶ。溝は必ず二



本又は三本をつける、外國では必ず三本つけるが日本のシャンツエでは二本でもいい、然し三本つければ甚だ安定である。少しスピードが落ちるといふ心配があるが。

材は、世界の一流選手は皆アメリカ産のヒツコリーを使つて居る、此は大變滑べりもいいし弾性もあつていいが、日本では一寸手に入らない。イタヤか樺が適當であらう。

締具は、ハウグ、ビンディングを少し自分で改良して用ひると大變具合がいい。今迄のトウアイアンの代りにハウグの耳金をつけてあとは、今迄通りで良い。

ワックスは、滑る度に生のパラフィンを塗りつける。靴は余り小さく、軽くては、重い長いスキーを操縦し難い。

二、シャンツエ

飛躍台の事を吾々は普通にシャンツエと呼んで居る。

一圖のAからB迄をアプローチ(アンラウフ)と言つて此處を滑つてスピードをつけBから空中に飛び出す。CからDをアライディング、グラランド(アウストラウフ)着陸斜面と云つて此

處へ降りて又滑つて行くのである。Bの附近だけを特にシャンツエと云ふ事もある。アプローチは、凹カーブの極く平滑な斜面でなければならぬ、凸凹は絶対に避ける。上の方は随分急(四〇度位迄)でも好いが、Bの近くでは次第にゆるくする。B'があまり短いといけない。

長すぎると遠くへ飛ばない。そのシャンツエに適當して作る。之が大變難しい問題である。

B'の傾斜は十度位迄がいい、傾斜の多い方が、飛行距離は縮るが立ち易い。

着陸斜面は、大きな台だと着陸する邊が30—40°にしておきたい。廿米を飛ぶなら、それよりゆるくてもいい。

幅は充分廣く取る。飛躍する迄充分よく踏みかためる、固くしてあれば、怪我はしない。柔い斜面で飛ぶと怪我し勝た、着陸斜面の着陸する邊の斜面をのぼして其の線の下にシャンツエがある様に作ると大變立ち易い。大きなシャンツエは皆さう云ふ風に作る。

三、飛び方

スタート、充分氣を落ちつけ、スタートしてから着陸迄の動作を一度頭に浮べて、きつと立

つぞと云ふ積極な氣持で勇しくスタートする。其の前にビンディングの具合やスキーを調べておく事は云ふまでもない。完備したシャンツエならばアプローチの頂上からすぐ滑べり出せるが、普通の長い斜面の一部をアプローチに利用した物とか、或はアプローチの途中から滑り出す場合は、外國では斜面に直角にスキーを置いてそれからジヤムプターンでスタートする。

アプローチでは、杖を使ふ事を一切許されないから、日本でも杖を使はない様になるであらうから、ジヤムプターンでスタートする様に練習した方が良いと思ふ。

アプローチ スタートするや否や直ちに屈身姿勢に移る、スピードを大にし、しかも安定に滑り且又踏切りの準備の爲である、兩足を揃へる、兩スキーは出来る丈相接しさせる。兩膝をくつつけて折り曲げ、前かがみとなるから胸は膝に近くなる、尻を余り後方に落してはいけない。

手は前の方に延ばす、体重を兩足の裏全体に平均にのせる。スピードを出す爲には、膝を深く折り踵に重心を落すと良いが、踏み切りが困難となる、初心者は体重を足の裏全体にのせ、

しかも爪先きの方に余計にのせ氣味にする。眼はシャンツエの先端を見つめ安定にしかも勇敢に滑る。

サツツ (踏み切り) サツツは、ジヤムプの運命を凡そ決定する、サツツは一方に於て体の空中飛行に對して、正しい位置を與へ、他方に於て飛躍距離を大にする。此のサツツの上手、下手がジヤムプの上手、下手を決定する。美しく且遠くへ飛ぶのがジヤムプの理想である。そして美しく且遠くへ飛ぶには、サツツを正確に、力強くやらねばならない。外國人のサツツは實に猛烈なもので、吾々のサツツは、サツツとは云へない程貧弱な物である。此の強いサツツを獲得する事に依つてのみ吾國ジヤムプの進歩がある。

シャンツエの端が近づけば、屈身姿勢を益々前傾する。

足がシャンツエを離れる瞬間に、急速に力強く前上方に延ばす、腕を前上方に強く振りあげ身体を延ばす事がそれと同時にされる。幅飛びの踏切りの様に蹴り上げるのではない。足の裏全体で(重に爪先で)膝を強く延ばすのである。体は前上方と云ふより殆んど前と云ふ方が

良い位に前に傾ける。出来る丈前へかける。此の時は身体は眞直ぐに延び切らない。

フライト 空中へ出たら、腕を強く廻轉し、益々前傾する。上体を折れば、飛行力學的に誠に有利である。一流のジャムパーは皆上体を曲げて「く」の字になる。サツツしてから手前へ振り上げてその腕を後へ廻はす時から空氣の抵抗に打ち勝つてグン／＼前傾する、膝はよく伸し腕も伸して廻はす。スキーが空氣の抵抗で上向きになりがちであるから、爪先を押しさげ氣味でスキーを押さえる。

ランディング (着陸) 着陸しかけたならば、着陸斜面を良く見て着陸の瞬間を意識する。一方の足を少々前進して着陸し、着陸する瞬間に其の足を前方に滑り出さしてテレマーク姿勢となりショックを抜く。着陸する瞬間に膝を硬直さして居ては立てない。テレマーク姿勢の際兩足を開きすぎるとショックに堪え得ない。二足長位進ませれば良い。上体は軽く前方に曲げる、ランディングしたら直ちに起き上り普通の直滑降の姿勢となり、滑走、スウイングして止まる。

注意 ジャンプ練習の注意としては、始めから大きな台で飛ばずに小さな台から段々大きな台へ進むのが、大切である。いきなり大きな台へ行けば、どうしても恐怖心が伴ふし、無理な事しか覺えない。小さい台を數多く飛ばす事が第一である。しかも單獨で飛ばずに誰かに一々見て批評して貰ふと上達が早い。此の事は大變大切な事だ。勇敢にしかも深重に、意識して飛ばす事が大切だ。恐れ乍ら飛ばのは一番禁物だ。

四、その見方

競技として行はれる場合のジャンプの見方に就いて述べる。

競技會では、選手は二回乃至三回のジャンプを行ふ。二回飛ばか三回とぶかは其の競技會の規則に依つて違ふのである。そして其の各回の飛躍に就いて、距離の點數とスタイルの點數とが與へられるのである。

飛躍距離はシャンツェの端に於ける兩スキーの條痕の中間部から後脚スキーの着陸痕最深部

中央迄の距離である。遠くへ飛ばば飛ぶ程それに相當した點數が貰へる。

競技會が全部終了した後で當日最も遠くへ飛んだ距離（轉倒せず）に對して二〇點が與へられる。そして他の短い距離に對しては二〇點よりそれぞれ少い點數が與へられる。二米短くなれば、一點引かれる割合である。

轉倒すれば距離の點數は無論なくなる。即ち〇點である。又例へ轉倒しなくても所定の距離以下しか飛ばない場合も〇點である。二回試技する競技會では、距離の點數は二回與へられる。そして其の平均が距離の點數である。

スタイルの點數を與へる爲めには、スタイル審判が三人居てそれ〴〵點數をつける。二〇點が滿點であつて、缺點があるとどん〴〵點數を引かれる。

二回飛ばば一人の審判から二回點數を貰ふ。審判は三人居るから全部を合して六點で割る。此が一回平均のスタイルの點數になる。此と前の距離の平均點を加へて二で割つたのが決定成績點で此の點の一番多い者が優勝する譯である。此の様に距離さへ遠くへ飛ばば良いと云ふの

ではなくて、スタイルの點數を取られると云ふ事が、此のジャンプの面白い點である。それだけ選手は苦心が多い譯である。

然らばどんなスタイルが良いのか。

合理的に、安全に、美しく、遠くへ飛ばば飛び方が點數が良いのである。技術ばかりでなく、大膽とか、落ちつきとか云ふ事は、その事自身が合理的であるばかりでなく、見る人にいささかの不安氣もなく見え又豪壯な男性的運動美を發揮するから採點の大きな要素になる事は當然である。スキーが揃はなければ不安定で見苦しい、身体が曲つてもさうである。だから無論減點される。

又此處で斷らねばならない事はフォームの美しさと云ふのは靜な弱々しい、繊細な女性的美を云ふのではなくて、荒つぽくても良い、線が太過ぎても良い、多少ギョチなくても良い動的な男性的美を云ふのである。

何が最も大きな採點要素かと云ふ事に就いて私の意見を述べるならば、それは如何に強くサ

590
37

昭和三年十二月廿八日印刷
昭和四年一月一日發行

定價 金四十五錢

札幌市南十一條西三丁目三番地
社団法人 日本放送協會北海道支部

編輯兼發行 代表者 古賀傳吉

札幌市北二條西三丁目一番地
印刷所 資會社 北海石版活版所

印刷人 札幌市北二條西三丁目一番地
本間清造

賣捌所 日本放送協會北海道支部

同 富貴堂書房

札幌市南一條西三丁目
電話二五七番五八五番
振替水樽三一七番

ツツし如何に前傾するかと云ふ事にあると思はれる。其の事が遠くへ飛んで安定に立つと云ふ事に最も大切な要素であるからである。

どんなジャンプをする人がうまいかは大概之でお解りになつたらうと思ふが、大体を更に繰り返すならば、安定に、速にアプローチを滑り、力強く勇敢に空中に飛び出し、スキーをよく揃え、手を強く廻はし、充分前傾し、安定に着陸して又滑降して行くのがいいのである。更に縮めて言へば、勇敢に、安定に、飛ぶのが良いのである。

590
37

